まえへ9曲　うしろへ9曲

デジタル選曲

マイクロコンピューター搭載。どこまで進化するのかラジオカセット。

メタル&フェザータッチ



マイクロコンピューター
ステレオ パディスコ 8800

TRK-8800 ¥84,800

●高級デッキなみの操作感覚フェザータッチ ●2モーターシステムが可能にした高精度回転ワウ・フラッター0.06%(W.R.M.S) ●メタルテープの性能をフルに引き出すメタル対応ヘッド搭載 ●曲の頭出し思いのまま、繰り返し聞けるリピートデジタル選曲機構 ●テープを初めから終わりまで繰り返し自動演奏するオートリワインドプレイ機構

●2ウェイ・4スピーカーシステム(16cmウーハー×2＋5cmツイーター×2) ●実用最大出力10W(5W+5W) EIAJ/DC ●大きさ 幅55.6×高さ31.8×奥行17.3(cm) ●重さ 8kg(乾電池含む)

★選曲のために、曲と曲との間に3秒間以上の無信号部分が必要です。



くらしを豊かに…
「日立新技術シリーズ」

日立の新技術・新アイデアから生まれた代表商品です。このエレクトロニクスの基本技術は、日立カセットレコーダーに共通して生かされています。



品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI RADIO CASSETTE RECORDER



上手に使って上手に節電

日立家電販売株式会社　〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111

日立クレジット株式会社　〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

お求めは、お手軽なお支払い日立のクレジット

★ご購入金額から頭金を差引いた金額が1万2千円から100万円までの場合、クレジットがご利用いただけます。
★商品のお問い合わせ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

全日本男子「クウェート国際」に参加

日本協会は1月24日の月例常務理事会（東京）で、強化部提案の「クウェート建国記念・友好国際トーナメント」に出場する全日本男子代表チームを承認、団長に荒川清美理事長を決めた。

同トーナメントは、2月9日から16日までクウェートで、日本のほかスペイン、オーストリア、中国、クウェート（2チーム）が参加して開かれる予定で、日本協会は、昨年、招待をうけた時から参加を決めていた。

代表チームは、同トーナメントのあと、ヨーロッパ遠征（2月17日〜3月4日）を計画、西ドイツ、ベルギー、ポルトガルの転戦を内定している。これは、「日本体育協会特別国際事業」の一つとして行われるもので、代表チームは2月7日午後1時40分成田国際空港を出発する。

第10回世界選手権（来年2月・西ドイツ）のアジア予選が今秋に行われる公算が強いだけに、全日本男子にとって、かっこうのトライアルとなる。

遠征メンバーは、昨秋発表された「55年度ナショナル」（本誌191号参照）の中からピックアップされたが、14選手のうち、GK岡部（大崎電気）を除いて、すべて昨夏の「モスクワ・オリンピック代表」に選ばれていた選手である。

これは、今回の事業に、いわばモスクワの代替ともいうべき性質を日本協会が含ませているからでコーチングスタッフも「モスクワチーム」の竹野ー東コンビによって組まれている。

「モスクワ」に選ばれていたGK井藤（日体大）も、当然、リストに載っていたが、1月8日、世界学生選手権（フランス）から帰国したばかり2月に卒業試験とあって、竹野監督が同選手と話し合った結果、今回の遠征には参加を見合わすこととなった。

また、昨夏の強化部総会では、この遠征には、若手選手を加えることが申し合わされていたが、「55年度ナショナル」の5人の学生のうち、西山（筑波大、世界学生選手権得点王）ら4人が、世界学生の遠征直後のため、この大会に参加しなかった田口（中大）も試験と重なったため、いずれも派遣が難しいと判断された。

竹野監督は、「モスクワ代表」からもれていた8人の社会人選手のうち数名をピックアップしていたようだが、1月13日、強化部長を兼ねる日本協会・荒川理事長との話し合いで「全メンバーをモスクワ代表とする」ことになり、試合数からみてGKのみ岡部を補充することでまとまった。

日本がアジア選手権以外のアジアのトーナメントに出るのは初。

クウェート国際及び欧州転戦代表チーム

・団長	荒川　清美	（59才）	日本協会理事長		
・監督	竹野　奉昭	（44　）	日本協会強化委員		
・コーチ	東　嘉伸	（44　）	日本協会コーチ群		
・選手					
GK	福井　秀人	（29才	湧永薬品）	180cm	㉝
	岡部　大	（26	大崎電気）	182	⑤
	大畑　孝広	（24	本田技研鈴鹿）	184	⑥
FP	津川　昭	（29	湧永薬品）	180	㊴
	穂積　豊彦	（28	湧永薬品）	180	52
	大原　真造	（28	大同特殊鋼）	175	⑫
	斉藤将一郎	（27	湯沢クラブ）	187	㉜
	山本　伸二	（27	湧永薬品）	178	⑯
	斉藤　幸司	（27	大崎電気）	174	㊸
	蒲生　晴明	（26	大同特殊鋼）	192	75
	中木　満明	（26	大同特殊鋼）	174	㊱
	関　健三	（26	三陽商会）	180	⑰
	池ノ上孝司	（25	湧永薬品）	185	㉕
	志賀　良弘	（24	湧永薬品）	187	㉑

・○内数字は公式国際試合出場回数

モスクワ5位・スペインと対戦

さて、大会だが、日本としては昨夏の東ドイツ・中国遠征以来、久々の公式戦。

参加国はヨーロッパ2、アジア3とバラエティに富み、日本は、モスクワ5位のスペインを破ってぜひ優勝を飾りたいところだ。

オーストリアとは、一昨年、互いの招待試合で日本が有利に試合を進めた相手。

注目は中国。一昨年のオリンピック予選以来の対戦となる。昨春訪中した時は、ナショナルは現れず、この間にどれだけ力をあげているか興味深い。

来年の世界選手権は、アジアから2カ国が参加できるので、中国の実力が急速に高まっていたとしても、あわてることはないが、全日本男子は、一九七〇年代以降、公式国際戦でアジアのナショナルチームには不敗である。

竹野監督はつねづね「この記録は、どこまでもつづけたい」と話しており、中国戦には斗志を燃やして臨むことになる。

ホスト国・クウェートは、ヨーロッパからのコーチ招へいなどがあって、一昨年のアジア選手権（南京）では、実力アップを印象づけている。

建国記念のスポーツ行事に、ハンドボールを押し立てるなど、協会パワーもなかなかのものがある。

荒川理事長の話では、会場は新設のスポーツホールが使われる予定だ。

世界選手権Bの見学も計画

クウェート・トーナメントのあと、代表チームは1年ぶりでヨーロッパ転戦を行なう。

スーパーカップ（2月4日〜8日）、世界選手権Bグループ（2月21日〜3月1日）などビッグトーナメントが行われるため、転戦先の交渉に手間どっていたが、西ドイツで2試合、ベルギーで2試合が確定している。

また、日程が折り合えば、フランス各地で開かれる第3回世界選手権Bグループを見学する初の試みも計画されている。

この大会の上位5カ国には、来年の世界選手権出場権が与えられることになっており、日本との対戦も充分予想されるだけに、この見学は、大きな意味をもってこよう。

モスクワ不参加、朝鮮民主々義人民共和国遠征のとりやめなど、次々と計画だおれに終り、失意のうちに1年をすごした全日本男子が、新たな希望をかけて旅立つ今回の遠征は、大いに注目されるものがある。

＜目次は2頁＞

中国男女の5月来日決まる

日本協会は1月24日の月例常務理事会で、5月に予定する「ジャパンカップ」（日本、中国、東ドイツ、アメリカの男子4カ国対抗既報）について協議した。

現在のところ中国が参加を意思表示した以外、東ドイツとアメリカからは回答がなく、具体的なスケジュールなどにまで論議は進まなかった。

しかし、荒川清美理事長は、東ドイツの来日には自信を示しており、アメリカが不参加となった場合は、強化部の提案する「日本B」を編成し、3ケ国4チーム対抗戦とすることを申し合せた。

アメリカが来日し、東ドイツが不参加の場合も同ようの方法が採られる。

また、会期については5月23日から30日または31日までとし、30日の東京体育館のほかは、広島、大阪、名古屋、横浜などが候補地にあげられ、関係協会との折しょろに入ることが決まった。

◇

日本協会は、中国男女ナショナルチームが5月21日来日、男子は「ジャパンカップ」、女子は「第2回日中交流」を行うことになったことを明きらかにした。

女子は、いまのところ各地で5～6試合を予定しているが、詳細は未定。中国男子の来日は三度目、女子は史上初である。

今月中に財団法人へ

延び延びになっていた日本協会の財団法人化が2月中には実現されそうである。

法人化への全条件をととのえ、あらゆる手つづきを終えていた日本協会は、当初、昨年5月末の認可を確信していたが、文部省内の事情から6月末、10月末、11月末年内とずれてみ、一部役員、地方協会から、事情説明を求める声も寄せられていたが、このほど日本協会・大野金一総務担当常務理事が明きらかにしたところによればどうやら、2月中旬には、法人認可がおりることが確定した模様である。

日本協会では、認可即日、昭和13年創立の現・日本協会を解散し財団法人・日本ハンドボール協会を発足させる準備を、昨年5月11日の全国代議員会と理事会で決定している。

なお、注目の役員は、認可と同時に加盟団体（「都道府県協会」と「全国的ハンドボール団体」）に対し評議員（52名以上60名以内）の選出を求めるが、理事については認可後、55年度末までの期間が50日足らずのこともあって、文部省の指示により、「財団法人設立時理事」を、そのまま56・57年度理事とする可能性もでてきた。

法人後の理事数は20名以内と決められており、このなかには会長副会長、専務理事が含まれる。

昨年5月11日の全国理事会で推せんされた「財団法人設立時理事」11氏と、その後、日本協会長によって推せんされた9氏、それに日本協会長推せんの監事2氏は次のとおりである。（ABC順、敬称略）

▽理事　荒川清美（専務理事）安藤純光、藤田八郎、林達夫（副会長）、平田幸男、石切山稔治、入江信太郎、伊藤和夫、北川勇喜森恭一、西村孝雄、中井泰彦、大野金一、大西武三、越智武、斎藤英四郎(会長)、境井秀三、清水正若山博、山田稔。

▽監事　松本重雄、都野雄二。

3連盟が全国理事会

日本協会加盟の全国連盟が相次いで全国理事会を開く。

まず、全日本学連が2月8日午前11時から、全日本教職員連が14日午後2時から、全国高体連ハンドボール部が15日午前10時から、いずれも東京渋谷の岸記念体育会館。

なお、日本協会も今春3月で役員の任期満了となるが、前掲のとおり法人化がからみ、現行、法人いずれの全国会議日程も1月25日現在、発表されていない。

全国から多数が受講
エリアス氏招き講習会

IHF(国際ハンドボール連盟)規則審判委員E・エリアス氏（スウェーデン）を招いての「日本協会レフェリー・コース」は、昨年12月15日から20日まで、東京・日本青年館と東京体育館で行われ全国から28名の審判関係者、レフェリーが参加した。

エリアス氏は、今夏8月1日から施行される「新ルール」については、5月に最終的決定がおりるまで講習できないとして、主に、レフェリングの基本概念、現行ルール解釈を講議した。

また、開催中の第32回全日本総合選手権を視察、17日には日本協会の案内で、名古屋市を訪れ、オリンピック招致問題について、地元関係者の説明をうけた。

E・エリアス氏の話　熱心な日本の最上級レフェリー諸氏と話し合いが出来たことを喜んでいる。

日本人レフェリーのルール解釈力、精通度は、かつて私が経験したことのないほど高く、ペーパーテストの結果、驚異的な正解率を示す人もいた。

東京体育館でみたレフェリングの印象は、ペアによってレベル差がありすぎる。

また、きょう、よいレフェリーと思ったペアが、翌日拙い笛を吹くといった不安定も目についた。

しかし、全般的に日本のレフェリー・レベルは高く、満足いく講習会だった。（文責・編集部）

「ハンドボール」
56年2月号(第193号)目次

【表紙写真】全日本総合女子決勝、初優勝したジャスコ辻本のダイナミックな攻撃。

スポーツ・イベント提供

来秋のア大会で男子ハンドボール実施決まる

ＪＯＣ（日本オリンピック委員会）は、昨年12月17日の常任委員会と総会で、12月3、4日ニューデリーで行われたＡＧＦ（アジア競技連盟）実行委員会の報告として「一九八二年、ニューデリーで開かれる第9回アジア競技大会にハンドボールなど競技が追加されることになった」と発表した。

ハンドボールのアジア競技大会での実施は史上初、ニューデリー大会は男子のみ行われる予定で、競技場はアウトドアと伝えられる。

なお、会期は来年11月19日から12月4日までの予定。

日本協会・荒川清美理事長（ＪＯＣ常任委員）の話　オリンピック、アジア大会、ユニバーシアードの正式競技になることが宿願だっただけに、この知らせは嬉しい。インド側は、日本に物心両面の援助を求めていると聞くが、アジア・ハンドボール界の発展のためにできるだけのことをするつもりだ。もちろん、日本チームは優勝を狙うよう、来年は世界選手権（2月）と並ぶ二大目標としたい。

男女とも4カ国で予選

世界ジュニア選手権アジア地域

ＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）は、今秋行われる第3回世界ジュニア選手権のエントリーを昨年11月末に〆切ったが、このほど、アジア地域から申しこみしたのは、男子が日本のほか台湾、クウェート、サウジアラビア、女子が日本のほか中国、韓国、台湾であることが明らかになった。

ＩＨＦは、本誌既報のとおり、今回から、男女とも本大会出場国を16カ国に制限、各大陸別に予選を決めており、アジア地域は、男女各1カ国が割りあてられている。

このため、日本協会が予測していたとおり、男女ともアジア予選の開催が確定した。

ＩＨＦは、大陸予選は、今春4月1日から6月30日までの間に行うとしているが、渡辺和美アジア担当理事は、日本協会強化部の問合せに対し「4月中〜下旬開催」をもらしている。

開催地は、渡辺理事の当初案では、男女同時開催のたてまえから両方にエントリーしている日本と台湾を第一候補にあげていたようだが、最近の情報では、台湾と韓国に開催意思があると伝えられる。

遅くとも2月15日までには、詳細が明きらかにされよう。

注目される台湾のエントリー

日本協会筋では、台湾が男女とも世界ジュニア選手権に、エントリーしたことは、昨夏7月のＩＨＦモスクワ総会で「台湾は、今後〈中国タイペイハンドボール協会〉の名のみで、ＩＨＦに加盟できる」と決めたことを、台湾が承認したものと注目している。

同総会に出席した日本協会・荒川清美理事長によれば、台湾代表は当時、〈中国タイペイ〉の名称変更には強く反対し、絶対に承服しかねるという態度を示した。

今回のエントリーは、当然、中国タイペイ協会の名で行われたハズであり、モスクワ総会後の台湾内の〝変化〟を物語るものである。

▽

○…ＩＨＦがこのほど各国協会と報道関係者に配布した「81・82年度名簿」によると台湾は「ＴＡＩＷＡＮ」として、ＡＢＣ順の68番目に記載され、協会名は「Chinese Taipei Hanball Association」、国名の略称は「ＴＰＥ」となっている。

また、同名簿に史上初めて中国の名が記された。中国の国名略称は「ＣＨＮ」である。

台湾が、世界ジュニアにエントリーしたことは、日本協会の判断するとおり、中国タイペイ協会の名での行動を〝承認〟したものと思われるが、この点については、ＩＨＦ筋、中国筋、台湾筋のいずれからも、1月20日現在〝公式発表〟はない。

この問題が、協会関係者にこれほどまでに関心がもたれているのは、中国と台湾が同時に加盟するスポーツ団体の場合、ＩＯＣ（国際オリンピック委員会）を含めてつねに、台湾の名称変更が騒ぎとなるからだ。

台湾は「中国タイペイオリンピック委員会」と改めるようＩＯＣから要求されているが、いぜん「中華民国オリンピック委員会」を主張している。

ハンドボールが「中国タイペイ協会」に名称変更したとすれば、国際スポーツ機関では、自転車、バドミントンに次ぐものである。

（杉山）

近く「ジュニア代表」を発表

世界ジュニア選手権のアジア予選開催が決定となったため、日本協会強化部では、ジュニア・ナショナルの強化を急ぐことになり、男子は1月15日から1週間名古屋で、候補選手を集めて第1回強化合宿を行った。

リストアップされた選手は36名だが、学生選手の多くが学年試験と重なり全員参加はならなかったが、目標が間近に迫っているとあって、初顔合せとは思えぬ熱のこもった練習がつづいた。

担当の木野実、本田洋両コーチによれば、2月9日からもう一度候補合宿を行ったのち16名程度の予選出場チームを編成、3月以降強化をつづける。

一方、女子は、昨年7月、36名の候補をリストアップし、1回のナショナル合同合宿を行って、様子待ちだったが、予選が予想より早い時期に行われる可能性が出てきたため、2月以降は、一気に予選候補選手（19名の予定）を決め強化を進めることとなった。

なお、男女とも候補選手の氏名は発表されない。

また、男女とも出場権を得た場合の代表チームは、改めて選考される予定である。本大会は、女子が今秋10月16日から26日までカナダで、男子が今冬12月6日から3日までポルトガルで行われる。

〔注〕第3回世界ジュニアの出場資格は、男子が一九六〇年以降生まれ、女子が一九六一年以降生まれ。

日体協と共催で「コーチ養成」10日から講習会（東京）開く

日本協会普及指導部は、日本体協との共催による「昭和55年度公認スポーツ指導者ハンドボールコーチ養成講習会」を、2月10日から15日まで東京代々木の東京オリンピック記念青少年総合センターで開くことになり、その細目を発表した。

この講習会は、ハンドボール界内部のためのコーチ（指導者）づくりというよりは国民スポーツとしてのハンドボールの指導者養成が主眼におかれている。

講座内容も別表のようにバラエティに富み、成果が期待される。

受講者は、全国から推せんされた36名が予定されており、このなかにはナショナルコーチやスポーツトレーナの1、2級ライセンスを持つ人たちも含まれている。

なお、この講習会と同じような目的の事業が一昨年「上級コーチ講習会」の名で開かれ、好評を得ている。

昭和55年度公認スポーツ指導者ハンドボールコーチ養成講習会

時限	第1日（2月10日）	第2日（2月11日）	第3日（2月12日）	第4日（2月13日）	第5日（2月14日）	第6日（2月15日）
1		競技規則	発育・発達からみた指導方(2)	体力トレーニング法	西独の指導法	テスト
2	受付 10：00〜 開講式 10‥40〜	審判法	ハンドボールのキネシオロジー	コーチ論 他競技の場合 岡野俊一郎氏	ハンドボールの傷害と処置	テスト
3	ハンドボール競技の特性国際・国内組織と運営	「指導法①」小学校の場合	「指導法③」高校男子の場合	「指導法⑤」一般男子・ナショナルの場合	個人戦術と指導法(1)	閉講式
4	コーチ論 女子の指導	「指導法②」中学校の場合	「指導法④」高校女子の場合	「指導法⑥」一般女子・ナショナルの場合	個人戦術と指導法(2)	
5	ハンドボールの歴史	発育・発達からみた指導法(1)	世界のハンドボール情勢	研究討論コーチ組織のあり方について	研究討論	

大同に「日本スポーツ賞」

日本協会は、昨年12月11日の常務理事会（東京）で、読売新聞社制定の「昭和55年(第30回)日本スポーツ賞ハンドボール部門賞」に大同特殊鋼(愛知)を推せんした。

大同は、55年の日本リーグ、全日本実業団選手権、栃木国体の3大会に優勝したほか、9月にヨーロッパ遠征を試み、二つの国際トーナメントで優勝、準優勝の成績を残した。

なお、大同は48年にもこの賞を受けている（当時の社名は大同製鋼)。

4月にホンコンで国際大会

本誌既報のとおりホンコン協会では、極東地区の有力単独チーム（男子）の国際トーナメントを開くことになり、このほど細目を発表した。

それによると大会は「インターポート・ハンドボールカップ」と呼ばれ、今春4月19日から24日までホンコンのクイーン・エリザベススタジアムで行われる。

招待されるのは日本、韓国、台湾などで、中国（上海市）からの代表も見込まれている。

日本協会も、昨年くれ、ホンコン協会から招待状を受けており、ホンコ全日本総合選手権優勝の湧永薬品(広島)に、参加を打診中である。

湧永辞退の場合は日本リーグ優勝の大同特殊鋼（愛知）または同3位の本田技研鈴鹿（三重）のいずれかが推せんされる。

2チームの欧州派遣中止

日本協会は12月11日の常務理事会で強化部が望んでいた全日本男子2チームの同時ヨーロッパ派遣（本誌191号既報）を、予算などの関係で見送ることに決めた。

この結果、今年度内のヨーロッパ遠征は1頁所報のとおり、クウェート国際終了後、ベルギーなどを転戦するだけとなった。

2月は強化合宿ラッシュ

日本協会強化部は、56年度内に「ジュニアを含めた三つの世界選手権と、それにともなうアジア予選が女子世界選手権アジア予選（本大会は57年12月）と合わせ四つも行われることから、各ナショナルチームの強化を促進しているが、2月には5回の合宿が行われることになった。史上初だろう。

まず3日からクウエート遠征の全日本男子が最終合宿、8日から12日まで女子ジュニア、9日から12日まで男子ジュニア、17日から23日まで女子ナショナル、21日から25日まで再び女子ジュニアというものである。

日本、西ドイツ破り7位入賞

～第8回世界学生選手権～

西山（筑波大）、「得点王」の栄冠握る

【パリにて平岡秀雄本誌編集長（日本選手団コーチ）発】第8回世界学生選手権は、昨年12月28日から1月4日までフランスの19都市を会場に、世界13カ国の学生ナショナルチームが参加して行われた。

4回目の出場となった日本は、予選リーグB組でソ連に敗れはしたものの予定どおりコンゴを降して準決勝リーグへ進出、宿願の「ベストシックス」へ向けて斗志を燃やしたが、惜しくもフランス、ハンガリーに連敗、目標達成は成らなかった。

しかし、7位決定戦では強豪西ドイツを破り、ヨーロッパ関係者賞讃のうちに、7位を獲得した。

日本は、第1回（一九六三）にも7位となっているが、この時は参加が7カ国だった。

また、大会を通じての最高得点選手（得点王）に5試合で55ゴールをあげた日本の西山清選手（筑波大3年、氷見高出）が選ばれ、閉会式で表彰を受けた。

なお、優勝争いはルーマニア×フランスの初顔合せとなり、地力に優るルーマニアが快勝、4連覇を成しとげた。

日本チームは1月8日元気に帰国した。

予選リーグB組

日本の第1戦（遠征第5戦）は、12月28日午後3時30分からアブランジュ市でコンゴと行われた。審判タンクレ、レロン（フランス）観衆＝八百

日本 39（22―10、17―13）23 コンゴ

○…第1戦とあって、あるいは緊張するのでは、と思えたが、はたしてコンゴのロング攻撃をうけ0―2とされた。

しかし日本も矢島、三本松、猪野らが1対1を破って得点していった。13分にはコンゴのプレーにも慣れ、9―4とした。20分を過ぎるとコンゴのロングシュートが決まりだし、徐々に点差をつめられた。

後半に入ると日本は、速攻と遅攻にバランスのとれた攻撃になった。また防禦では、コンゴの攻撃をうまくくい止め、コンゴの追撃を許さなかった。

	【コンゴ】	得	【日本】	得
GK	アムボンビ	0	井藤	0
GK	マランダ	0	上村	0
FP	マメール	2	矢島	3
FP	ヌ・コーデア	2	東根	5
FP	モウキヤマ	5	村崎	10
FP	モエレ	1	植村	2
FP	ムブーラ	2	溝部	1
FP	フュミュ	8	三本松	2
FP	ムザラ	0	粟屋	1
FP	マコンガ	0	西山	12
FP	イグヌンバ	1	猪野	1
FP	ロブソン	2	尾上	2
	23	（1） PT （2）	39	

なお、B組に予定されていたブラジルの棄権で、日本はコンゴ戦の勝利によって準決勝リーグ進出を確定的にした。

日本、急迫も力つく

第2戦・ソ連との試合は12月30日、カエン市のスポーツパレスで行われた。審判＝レロン、タンクレ、観衆＝千五百

ソ連 33（16―13、17―11）24 日本

○…B組の決勝とあって地元ファンの関心を集めた。

日本は、昨日の対フランスB（後掲）に見られた守りとはうって変った好ディフェンスを見せた。

	【日本】	得	【ソ連】	得
GK	井藤	0	ズーコフ	0
GK	中尾	0	ゴルブコフ	0
FP	猪野	4	チガレフ	2
FP	西山	7	サルジェフスキー	2
FP	矢島	4	メチコフ	10
FP	東根	2	カベシュニコフ	6
FP	村崎	6	ブラチキン	2
FP	植村	0	サオアフニカス	2
FP	粟屋	1	タビジエ	4
FP	尾上	0	ソロビエフ	2
FP	柏原	0	レバン	2
FP	玉村	0	ズブコフ	1
	24	（3） PT （5）	33	

15分には7―7の同点となったが、ソ連はメチコフやタビジェの活躍で再び15―11と日本を引き離した。そして前半ソ連は17―11とした。

後半立上り日本は、猪野が連続得点して、19―16とせまった。

この頃から場内は、「ジャポン（日本）ジャポン」の応援にわきかえり、審判の笛が聞こえなくなるほどになった。後半15分には再び7点差とされたが、矢島、村崎、西山が連続得点するなどして再び21―25と盛り返した。

しかし日本の追撃もここまで。ソ連はポスト攻撃を中心に連続得点し、最終的に33―24と大きく点差を広げて試合は終った。

ソ連のGKゼーコフ、ズブコフ、メチコフ（主将）、レバンはいずれも2年前の第2回世界ジュニア優勝メンバー。ズーコフ（194センチ96キロ）は今年のジュニアにも出場資格があるそうだ。

ブラジルなど不参加

第8回世界学生選手権にエントリーしていた16カ国のうち、ナイジェリア、ブラジル、コートジボアール、スペインが大会直前に不参加を表明。スペインに代ってイタリアが出場したが、あとの3カ国は補充がつかず、地元フランスの学生選抜が急編成され、親善出場した。

不参加の理由は明きらかではなく、このため予選リーグの一部組み分けが変更となった。

ソ連 38（19―10、19―7）17 コンゴ

【順位】①ソ連2勝②日本1勝1敗～以上準決勝リーグへ～③コンゴ2敗

フランスBと親善試合

主管のFNSU（フランス学生スポーツ連合）は、棄権したブラジルに代えて、フランス学生Bを親善出場させ、B組にフランス学生Bを親善出場させ、日本との試合は12月29日午後8時45分からシャトレーヌで行われた。審判＝シンガー、ナットマン（イスラエル）

フランスB 25（13―7、12―11）18 日本

○…フランスBはカットインをセンタースリーから繰り返し、日本ディフェンスを突破して着実に得点していった。

【日本】		得
GK	井藤	0
	中尾	0
FP	東根	2
	村崎	4
	溝部	1
	西山	7
	矢島	2
	三本松	0
	猪野	2
	植村	0
	栗屋	0
	尾上	0
PT	(3)	18

得	【フランス】	
0	ゴダール	GK
0	キシエル	
4	ベットンフェルト	FP
4	メイヤー	
4	マーレブレ	
6	ミーユ	
0	ユエ	
2	デスロゼ	
4	エスパレン	
0	バロン	
0	テイゾン	
1	スチ	
25	(0)	PT

試合開始20秒、ミーユが中央を割って先取点を簡単にあげた。その後も中央のスリークロスからサイドにボールを展開し、加点していった。

一方日本は村崎の速攻や西山のロングシュートで応戦したが、常に1点を追うゲーム展開となった残り15秒フランスはスカイプレーを成功させて、前半12－11とリードして終えた。

後半に入るとフランスは、ポスト攻撃を中心に攻めてきた。ロングシュートモーションからポストにパスをし、ポストは体重を利用して日本守備陣を強引に振り切ってシュートを決めていった。

この間日本は、西山がPTを決めただけで、後半13分には12－18と大きく点差が開いてしまった。

その後もフランスのペースで試合が続き、日本の18－25で試合を終了した。

日本にとっては、思わぬ1敗の試合だが「フランス学生」の層の厚さを知ることにもなった。

ソ　連 31－8 Bフランス

Bフランス 28－14 コンゴ

準決勝リーグA組

惜しかったハンガリー戦

準決勝リーグA組は、予選リーグA組からフランス、ハンガリー同B組からソ連、日本が勝ちあがって行われた。

日本の第1戦（遠征第8戦）は1月1日アンジェ市でフランスと行われた。審判＝ナットマン、ジンガー（イスラエル）、観衆＝千五百

フランス 37（16－9／21－10）19 日本

【日本】		得
GK	井藤	0
	上村	0
FP	矢島	3
	東根	1
	西山	7
	村崎	3
	植村	0
	溝部	2
	三本松	0
	栗屋	0
	尾上	0
	猪野	3
		19

得	【フランス】	
0	メルロー	GK
0	チボー	
3	クーリオル	FP
5	ジエオフロワ	
3	メジャン	
5	デシャン	
2	アライモ	
5	ゲルマイン	
7	チク	
3	ヌウエ	
3	ベルオール	
1	シレオウ	
37		

○…フランスとしては、予選に特別参加させたBチームが日本に完勝している以上、拙い試合はできない――そんな感じのスタートだった。

フランスが、こうも気負うのはほとんどがナショナルプレイヤーで、Bチームとの選手の入れ替えがひんぱんに行われるからだ、という。

フランスは立ち上りから積極的に日本を攻めまくり、8分には8－2とした。そして22分には16－8として試合を一方的なものにした。特に15分過ぎからは、GKメルローが好守を見せ、日本を3点に押さえた。

後半に入って、西山のクィックシュートが決まりだしたが、時すでに遅く、試合の流れを変えるには、ほど遠かった。

二度の逆転実らず

第2戦・ハンガリーとの試合は1月2日午後5時からナント市のボーリー・パレスで行われた。審判＝ナットマン、ジンガー（イスラエル）、観衆＝三千

ハンガリー 27（17－15／10－9）24 日本

○…前日ソ連を破ったハンガリーに対し、日本がどのように戦うかに興味が持たれる一戦であった試合開始15秒、ハンガリーのキャプテン・コクシスのシュートミスを尾上が速攻に結びつけ先取点を挙げた。しかしハンガリーは、ポストマン・コルモスの活躍などにより10－8とリードした。その後日本は24分過ぎ、猪野がロングを決めて13－12と逆転に成功した。前半終了前にはハンガリーは再びモクサイのロングが決り、17－15で前半をおり返した。

【日本】		得
GK	井藤	0
	中尾	0
FP	矢島	3
	猪野	2
	尾上	6
	西山	8
	東根	4
	溝部	0
	栗屋	0
	三本松	1
	玉村	0
	植村	0
PT	(1)	24

得	【ハンガリー】	
0	ホフマン	GK
0	ピロ	
4	タカクス	FP
2	ナツド	
2	サラモン	
2	バロフ	
2	コルモス	
8	モクサイ	
3	コクシス	
2	コルゾス	
0	キース	
2	ケレル	
27	(2)	PT

後半6分、日本は東根、尾上が速攻を決め、再逆転したが、ハンガリーもすぐ得点して再びリードをした。その後も1点差を追う日本は、西山を中心に反撃したが、再びリードすることはできなかった。

ハンガリー 22（16－10／6－10）20 ソ連

○…立ち上りハンガリーは、センターのスリークロスからナッドとモクサイが豪快なロングシュートを決めてリードをうばった。ソ連はキャプテン・メチコフを中心に巻き返しを計ろうとするがリードできないまま前半を終えた。

後半に入ってもハンガリーはいいところで速攻を決めるなどして

斉藤・千野組、3位決定戦を担当

世界学生選手権に日本から初めて帯同審判員として同行した斉藤実（日体大出）、千野恒夫（山梨大出）ペアは、予選リーグA組に配属され、フランス×アメリカ（12月28日・ブレスト）、ベルギー×フランス（12月29日・ロリエン）、アメリカ×ベルギー（12月30日・レーヌ）の3試合を担当、誠実なレフェリングが好評となり、順位決定戦では、ユーゴ×ソ連の3位決定戦担当という抜てきをうけた

日本人レフェリーが「世界」というビッグタイトルのつく公式大会でレフェリングするのは史上初めて、しかも、ビッグカードとなった3位決定戦に起用されたことは、両レフェリーへの評価はもとより、"国際進出"がやや遅れていた日本審判界にとっても、大きな励みとなろう。

なお、この大会に集ったレフェリーは、地元フランスの2ペアのほかルーマニア、ソ連、ハンガリー、ブルガリア、イスラエル、日本だった。

常にリードを保った。後半20分過ぎ、ソ連は1点差に追いついたが、ポストからのノーマークを再三ハンガリーのGKジュコフに阻まれ20—22で破れた。

ソ　連　23（13—10、10—8）18　フランス

○…前日ハンガリーに敗れたソ連が、1・2位決定戦に出場するためには、得失点差からフランスに7点以上差をつけて勝つ必要があった。

ソ連は試合開始直後から積極的な攻撃をしかけた。また防御においても、昨日のハンガリー戦とうって変った足を使った防御を行なった。

試合はフランスのポイントゲッタージェオフロワの得点で始まったが、ソ連メチコフやチガレフの活躍で8分には5—1とした。そしてソ連は24分に10—6とした。しかしフランスもスカイプレーを成功させるなどして10—8とソ連にせまったところで前半を終えた。

後半に入るとフランスはキャプテン・ジェオフロワを中心に巻返しを計った。9分には14—3となり、17分には17—15となった。

後半残り10分、ソ連は決勝1位進出をかけて鋭い反撃に出た。22分に19—16とし、25分には21—17とした。しかしフランス・ジェオフロワがロングを決めて21—18とした。フランス陣はこの得点で決勝リーグ1位を確信したようだった。

その後、ソ連はチカレフなどの得点で28—13としたが、7点差をつけるまでにはいたらなかった。

ソ　連　33—24　日　本

フランス　22—18　ハンガリー

（この2試合は予選リーグの記録を適用）

【順位】①フランス2勝1敗（得失点差17）②ソ連2勝1敗（12）③ハンガリー2勝1敗（1）④日本3敗

7・8位決定戦

日本、一丸の斗志で勝利

日本と西ドイツ（準決勝リーグB組4位）の7、8位決定戦は1月3日パリ市のウイーレで行われた。審判＝タンクル、レロン（フランス）

日　本　32（15—14、17—15）29　西ドイツ

得	【日本】		【西ドイツ】	得
0	井藤	GK	ヴィット	0
0	上村	GK	ブレーム	0
1	矢島	FP	チルテ	0
2	東根	FP	フランケンシュタイン	4
5	村崎	FP	ワグナー	3
0	植村	FP	メイ	5
4	溝部	FP	ガスト	2
0	三本松	FP	バルドス	4
0	粟屋	FP	クローゲル	0
16	西山	FP	ボッシェル	2
5	猪野	FP	シュネッペル	9
0	尾上	FP	ベイドマン	0
32	（2）	PT	（4）	29

○…西ドイツポストマン・シュネッペルの得点で始まった7・8位決定戦は、両チームとも防御に精彩がなく、得点合戦となった。

日本は2分・3分に西山がロングシュートを決め2—1とした後溝部がサイドシュートを決め、3—1と先行した。西ドイツもシュネッペルを中心に得点を重ね、15分には11—9と逆転した。しかし日本は防御で頑張り、残り15分を4点に押さえる一方、6点を挙げて前半を日本の17—15でおり返した。

後半ロングシュートを打たせる戦法に出た日本は、ゴールキーパー井藤の好守に助けられ西ドイツを1点に押さえた。この間日本は西山のロングや東根の活躍で点差を広げていった。

後半4分30秒、ディフェンスの中心だった三本松がバッティングで退場し心配されたが、代わった植村がその責任を果していた。

残り15分日本は26—20とリードして勝利を意識したせいか、動きが鈍くなり、西ドイツに連続してペナルティを与えてしまった。

22分に26—29とせまった西ドイツであったが、その後攻撃にあせりが出たのか、単調なロングシュートを繰り返してしまった。

日本は最終戦とあって全員一丸の勝利への意欲が実ったといえる。

なお、西山はこの日15点の荒かせぎ、合計55点となり、あと1試合を残すスティンガ（ルーマニア）に20点差をつけた。西山の「得点王」は確定的である。

ルーマニアが4連覇

予選リーグA・C・D組

◆A組

フランス　28（14—9、14—8）17　アメリカ

ハンガリー　29（14—9、15—11）20　ベルギー

ハンガリー　23（11—12、12—10）22　アメリカ

フランス　22（13—9、9—9）18　ハンガリー

アメリカ　30（15—10、15—6）16　ベルギー

フランス　37（20—8、17—4）12　ベルギー

【順位】①フランス3戦全勝②ハンガリー2勝1敗〜以上準決勝リーグへ〜③アメリカ1勝2敗④ベルギー3敗

○…2月に世界選手権Bグループを控えているフランスは、その代表メンバーのほとんどをこの大会につぎこみ、有力とみられたハンガリーを激戦の末に降した。残り15分16—12はハンガリーの地力から逆転の余地もあったが、フランスはディフェンスが頑張り逃げこんだ。

勝利こそ1に終ったがアメリカの進境も目立った。オニールをはじめ2m級の選手を並べたスケールは相当なもの。ロスアンゼルス・オリンピックへ向けての意気込みを感じさせた。

◆C組

ユーゴ　29（14—7、15—8）15　イタリア

ブルガリア　35（18—7、17—7）14　イタリア

ユーゴ　22（11—7、11—9）16　ブルガリア

【順位】①ユーゴ2勝②ブルガリア1勝1敗〜以上準決勝リーグへ〜③イタリア2敗

藤原氏欠場　全日本学連では、当初、世界学生選手権の代表チーム監督に藤原侑氏（全日本学連競技委員長）を決めていたが、出発直前、健康をそこねたため、同氏から辞退の申し出があり、コーチの大西武三氏を監督とし、コーチには日本協会強化部からの派遣役員・平岡秀雄氏を加えた。

木野氏も不参加　日本協会強化部から世界学生選手権へ派遣を予定されていた木野実氏は担当の全日本男子ジュニアの世界選手権予選実施が確定的となったため、その準備で、視察をとりやめた。

○…優勝を狙うユーゴにブルガリアが食いさがった。

ブルガリアはダニエルト、ナザロフ、ホウブチェフらの攻撃陣が好調で、動きではユーゴを上廻る場面も再三だった。

しかしユーゴは新星ブヨビッチゾフコ、サルセビッチら秀れた個人技で、次第に点差を開きはじめGKブコビッチの堅守もあって押し切った。

▽C組親善試合

ブルガリア 25—22 ロレーヌ選抜（フランス）

ユーゴ 28—12 ロレーヌ選抜

ロレーヌ選抜 23—22 イタリア

◆D組

西ドイツ 28（12—12, 16—7）19 イスラエル

ルーマニア 34（17—5, 17—9）14 イスラエル

ルーマニア 20（11—9, 9—9）18 西ドイツ

【順位】①ルーマニア2勝②西ドイツ1勝1敗～以上準決勝リーグへ～③イスラエル2敗

○…4連覇を目指すルーマニアが西ドイツにてこずった。

西ドイツはルーマニアの攻撃法をよく研究していたようで、守備での健斗が善戦につながった。

ルーマニアは後半ようやく先行しはじめ、5人のモスクワオリンピック代表を軸に善戦する西ドイツをねじ伏せた。

イスラエルはグス、ゲルファントの鋭い攻撃力が目についた。

▽D組親善試合

ルーマニア 27—19 フランス大学選抜

西ドイツ 21—16 フランス大学選抜

イスラエル 23—19 フランス大学選抜

全日本学生選手団

・団　長　中沢　重夫（全日本学連理事長）
・監　督　大西　武三（筑波大監督）
・コーチ　平岡　秀雄（東海大監督）
　～兼日本協会視察員～
・審　判　斉藤　　実（国際審判員）
　　　　　千野　恒夫（国際審判員）
・GK□①井藤　英忠（日　体4）185cm
　　　⑫上村　幸彦（中　京4）178
　　　⑯中尾　順一（大経大4）183
・FP　②矢島富士雄（筑　波4）185
　　　③東根　明人（早稲田4）183
　　　④村崎　　広（早稲田4）183
　　　⑤植村　　彰（早稲田4）180
　　　⑥溝部　　潔（日　体4）178
　　　⑦三木松俊雄（国士館4）178
　　　⑧粟屋　敏則（同志社4）172
　　□⑨西山　　清（筑　波3）181
　　□⑩猪野　栄一（中　央3）180
　　　⑪尾上　良生（中　央3）180
　　　⑬玉村　健次（大体大2）182
　　　⑭柏原　卓幸（福岡大2）181

・○内数字は今回の背番号
・（　）内数字は学年
・□印はナショナルプレイヤー

準決勝リーグB組

ルーマニア 29（15—12, 14—6）18 ブルガリア

ユーゴ 26（12—7, 14—6）13 西ドイツ

ブルガリア 20（6—7, 14—7）14 西ドイツ

○…スピード感あふれ、チームプレーに徹したブルガリアが勝利を納めた。特にブルガリアのマリノフとサイドプレーヤーエコロフのコンビネーションは素晴らしいものであった。

西ドイツはコンビプレーに欠けていた。ただクローゲルとガストのプレーには光るものがあった。

ルーマニア 21（12—8, 9—11）19 ユーゴ

○…6人のナショナル選手をようしたユーゴの活躍には、目を見張るものがあった。特に速攻の出足は素晴らしく、ルーマニアを若しめた。またルーマニアのロングシューター・スティンガを3点に押さえたディフェンス力は特記すべき点であった。

ルーマニアは攻守ともに均衡のとれたチームで、ロングシューター・スティンガを中心に攻撃を行なっていた。この試合攻撃で特に目立ったのは、ポストプレイヤー・バシカルの動きで、数多くのペナルティスローを獲得していた。

ユーゴ 22—16 ブルガリア

ルーマニア 20—18 西ドイツ

（この2試合は予選リーグの記録を適用）

【順位】①ルーマニア3戦全勝②ユーゴ2勝1敗③ブルガリア1勝2敗④西ドイツ3敗

順位決定戦

◆5・6位決定戦（1月4日・パリ）

ブルガリア 29（15—13, 14—12）25 ハンガリー

○…同タイプの対戦、激しい点の取り合いになったが、馬力のあるブルガリアが、終盤ハンガリーディフェンスを押しこみ、5位に食いこんだ。ハンガリーは、ソ連戦のような元気がなかった。

◆3・4位決定戦（同）

ユーゴ 29（16—8, 13—13）21 ソ連

○…この試合は20分を過ぎるまでユーゴが10—4とリードした。しかしソ連も反撃し、前半を13—13のタイに持ち込んだ。

後半に入ると頭能的プレーで攻めるユーゴに対して、ソ連は自分の体重を持てあましているかのごとく、単調なカットインを繰り返すだけであった。

◆決勝戦（同）

ルーマニア 20（9—6, 11—10）16 フランス

得	【ルーマニア】		【フランス】	得
0	ブウリガン	GK	メルラウ	0
0	イオネスク	GK	ラブレイ	0
6	ドラウ	FP	ジェオフロイ	4
4	フォルカー	FP	PH・ゲルマイン	2
3	スティンガ	FP	ベルナール	0
3	G・ドミトル	FP	チク	3
2	バシルカ	FP	メジアン	2
1	ハベルブルスク	FP	ヌウエ	1
1	ドラガニータ	FP	カイロー	1
0	ボロス	FP	デシヤン	1
0	M・ドミトル	FP	アライモ	0
0	ボイネア	FP	クーリオル	2
20	（4）	PT	（2）	16

○…世界学生選手権4連勝を狙うルーマニアと、2月に世界選手権Bグループが出場をひかえ、予備選考会を兼ねて意気上るフランスの対戦となった。

試合は前半23分までフランスがリードしていた。しかしモスクワオリンピックで銅メダルを獲得しているルーマニアはその後連続ゴールして11—10で前半を折り返した。後半に入るとルーマニアは、ディフェンスを足を使い、フランスの攻撃を阻止した。

フランスは、ルーマニアディフェンスの外でボールを回すだけで突破することができなくなった。

この間ルーマニアは連続5得点し、16—10とフランスを引き離した。その後フランスも反撃し22分には19—16と3点差に追いついたが、加点することはできなかった

前哨戦は2勝2敗

全日本学生は、世界学生選手権を前にフィンランド、フランスで親善試合（4戦）を行った。

◆フインランド▽第1戦（12月19日・パンタ市スポーツホール）

全日本学生 24（10―7、14―14）21 フインランド・ジュニアーズ

	得	【日本】	【フインランド・J】	得
GK	0	中尾	ハイナネン	0
GK	0	井藤	チリアカス	0
FP	3	矢島	コシュケーラ	7
FP	2	東根	パームルース	2
FP	6	村崎	ペスタルント	2
FP	0	溝部	フローマン	0
FP	4	三本松	ラーウソンネエン	2
FP	5	西山	エンケル	4
FP	0	柏原	ニツコ	2
FP	0	尾上	プロコッペ	1
FP	2	猪野	ハネルベリー	1
FP	2	粟屋	バルチア	0
	24	（1） PT	（4）	21

○…前半、日本はフインランドのミスに乗じて着々と加点して、5分すぎに9―2とした。フインランドは15分過ぎからプレスディフェンスをやめ、エリアにさがってシュートを打たせる戦法に出た。

今までフェイントでフインランドディフェンスをくずしていた日本も、動かぬディフェンスに攻めあぐみ、単調なシュートやミスが目立つようになった。一方フインランドは体重差を利用し強引なサイドシュートを決めるなどして7―10と日本を追い上げ前半を終了した。

後半に入るとフインランドは、たてのブロックからポストにパスを落とし、強引に日本守備陣を振り切って得点していった。しかし日本は村崎のロングシュートとGK井藤の好守にささえられ、勝利を得た。

この試合日本の井藤とフインランド・エンケルが優秀選手として表彰された。

▽第2戦（12月20日・カルヤ）

全日本学生 29（13―13、16―10）23 BK・46（フインランド）

	得	【日本】	【BK・46】	得
GK	0	井藤	フライベリー	0
GK	0	上村	ショストリヨーム	0
FP	2	東根	フリンク	0
FP	6	西山	ペスタリョーム	8
FP	3	三本松	ホルムベリー	4
FP	5	粟屋	ソデルベリー	1
FP	5	矢島	カールソン	2
FP	5	村崎	ププチ	7
FP	2	猪野	ソーテルマン	1
FP	0	玉村	カイロ	0
FP	1	尾上	コタヨキ	0
FP	0	植村	エステン	0
	29	（0） PT	（7）	23

○…BK46はフインランドリーグの前年度チャンピオンチーム。サイド攻撃を主体に、日本ディフェンスを切り崩しにかかるなどかなり技巧的なチームだった。

日本はしかしGK井藤の好守でこの攻撃を阻み、攻めては西山の連続得点などにより、8分には6―2とした。

BK46はこのあとポストにパスを入れ、ペナルティを得るなどして加点して前半13―13とした。後半に入るとBK46は、ロングシュートを打ちだしたが日本は細かいつめを連続させ速攻に結びつけた。

後半10分井藤に代ったGK上村は好守から矢島・粟屋・村崎などにボールをつなぎ、速攻により着々と加点していった。

この試合、大型チームのBK46チームに対し当り負けせず戦えた日本チームの自信は、本大会（世界学生）の好材料となろうが、7PTを与えたディフェンスは今後の課題となろう。

▽第3戦（12月21日・ミヨルマキ市スポーツホール、観衆＝二百八十）

フインランド・ジュニアーズ 22（10―10、12―7）17 全日本学生

○…第1戦のジュニアーズは21才以下、きょうの相手は20才以下の編成。雪じょくを狙って気合の入った練習を相手はしていた。

試合開始5分まで、両チームとも足を使った守りで相手の攻撃を阻んでいた。

	得	【フインランド・J】	【日本】	得
GK	0	ハイナネン	井藤	0
GK	0	チリアカス	上村	0
FP	3	コツキア	矢島	1
FP	3	コシュケーラ	東根	1
FP	0	カールソン	村崎	6
FP	3	ベスタルント	植村	0
FP	2	ラーウソンネン	溝部	0
FP	4	エンケル	三本松	1
FP	0	ニッコス	粟屋	2
FP	3	プロコッペ	西山	6
FP	2	レミイ	玉村	0
FP	2	オイレ	柏原	0
	22	（2）	PT （1）	17

（審・斉藤、千野）

5分過ぎ、粟屋がサイドから回り込み得点し日本が先行したが、フインランドもエンケルがロングシュートを決め追いついた。

その後もシーソーゲームが続くなかで、23分村崎がロングシュートを決め10―8と日本がリードした。しかしフインランドも連続得点し、10―10で前半を終えた。

後半に入るとフインランドは、フォーメーションプレーを決め、3点差とした。日本はこれに対し村崎の速攻と西山のロングシュートで1点差に追いついた。

後半17分フインランドに3点差とされてあせりが出たのが、単調なシュートを繰り返し13分間無得点に押さえられた。

一方フインランドはこの間着々と加点し、22―17と点差を広げ試合を終えた。この試合の優秀選手は日本・西山、ジュニアーズはチリアクス（GK）と発表された。

◆フランス▽第1戦（遠征第4戦 12月23日、ルアン市）

全日本学生 25（13―14、12―10）24 ノルマンジー選抜（フランス）

	得	【日本】	【ノルマンジー】	得
GK	0	井藤	ボナパルテ	0
GK	0	中尾	プーシン	0
FP	2	矢島	ディツン	4
FP	0	東根	ボンネマイン	1
FP	4	村崎	F・デュバル	2
FP	0	植村	ロッシェル	1
FP	4	溝部	ベノワスト	0
FP	1	三本松	ギレモート	0
FP	14	西山	モーターニュ	4
FP	0	猪野	ミニユ	1
FP	0	玉村	バッセ	5
FP	0	柏原	エスパレ	6
	25	（4） PT	（4）	24

○…GKを含め190cm台の長身選手を4人もそろえたノルマンジー選抜は、長身を利し毎回得点し、5分には5―1とリードした。

しかし日本チームもこの頃から長身者のプレーに慣れてきた。

三本松、東根、植村らが防禦で頑張りを見せ、前半を日本の13―14とした。

後半立上り、日本は連続ゴールして逆点するが、フランスもティソンを中心に3連続得点し、再逆点した。同点で迎えた21分から24分まで日本は西山が3連続得点し3点差として優位に立ちGK中尾の巧守もあって逃げ切った。

（6～11頁の試合後記はすべて平岡秀雄・記）

「位置どり」の難しさ痛感

千 野 恒 夫
（国際審判員
山梨大OB）

この度、機会を頂き滞同レフェリーという貴重な体験をさせていただきました。

中沢重夫団長他役員スタッフ、選手の諸君との二十四日間に及ぶ長期間に亘る欧州での団体生活は時としてトレーニングや勝負への厳しい打ち込みを見、又外国諸兄との友情と友好の情景を見、より新しいものへの探求の様子等を見るにつけ、毎日々々が意義深いものでありました。

私共レフリーも選手諸君に負けずと、身体のコンディションづくりに配慮をしつつ大会にのぞむことができました。

二十八日からの本大会を前にして行なわれました強化合宿・親善試合は、厳寒の地北国のフインランドに約一週間、フランスのルアン市に約一週間行なわれ、その間に四試合が組まれました。

私は斉藤氏とフインランドの第三戦を担当いたしました。残念ながら日本チームは、連戦の疲れが出たのか、思う様なコンビプレーが試合に出ず、負け試合になりました。

フインランドの前二試合、ツーペアーのレフリングを見る限りでは、日本のそれとさほど違わず、ラフプレーを早目に防ぐ努力や、良い審判位置の取り方に細心の努力を行なっている様子が伺うことが出来ました。

フランスでは、世界大会も何回か経験したフランス屈指のレフリーが担当しました。彼等も今大会にレフリーとして参加する二人（アントネス、ル・グラン組）でしたが、レフリングの位置なども含め納得のいく笛だと感じました。

どの会場も、今まで日本のビッグ大会でもこんな大勢の観衆はいないのではと思われる程盛況で、体育館一ぱいの人々でした。観衆の応援マナーは良く、プレーに対して公正な態度で接していた。

地元チームの得点には、サイレンや牛追い用の笛を吹き歓迎し、納得のいかないプレーや審判には口笛をピューピューと吹きならす様子は、話には聞いていても、始めて体験すると驚くばかりでした。

さて、本大会開催前日の二十七日、Dブロック審判を予定されていた私共は、チェコの審判が欠席したため、Aブロック配属に変更されました。

仏海軍基地の一つであるブレストを皮切りにして一日一五〇㎞のバス移動で、三日連続三試合を担当いたしました。

大男と大男の激しいぶつかり合いをどう処理しようかと気を配りつつ本大会に臨みました。実は私共Aグループには、ルーマニアのペアが共に行動を取りました。オリンピック三回、世界大会十回、世界学生は今回で2回目という大ベテランのパンテリア・クリエジャーヌウ氏に親しく御指導を得る機会を得ました。

これはあくまで友人としての助言に過ぎないと前置して以下のように述べてくれました。

始めての世界大会レフリーとしては厳正で公平かつよく動いていて良かったが、次の点に注意したほうが良い。

一、ゴールレフリーとセンターレフリーが同一のプレーを見ないようにする、つまりゴールレフリーはボール保持者以外のプレーヤーの動きに注意する。

二、プレーを細かく切らず、良く流れを見ながら判断する。

三、観衆を意識してきびし過ぎる笛を吹かないように。

以上日頃岡前審判部長がよく示唆する点でありました。ただ警告の黄カードを2人の審判が示すことは退場を意味する。またペナルティを2人の審判が示すということは、2人の審判が1点にしか注意を払っていないことを示すという指示には思い当るものがありました。

セミファイナル・Aグループはルーマニアとイスラエルからの審判が担当しました。私共は日本がセミファイナルに出場したため、この間審判はなく、他国のレフェリングをしっかりと見せていただきました。

イスラエルのレフェリングは、アドバンテージを見すぎ、身体の小さい日本チームは、防禦で引きづられる場面が多くペナルティを取られる不運がありました。

笛は早目に吹くべきではないと思うが、状況の把握は大切であることを強く感じました。しかし、皆さんベテランで、規準の波は決してありませんでした。

いよいよ明日ファイナルゲームという日の夜、我々が明日の3・4位決定戦を審判することが知らされました。後で分かったことですが、ルーマニアのクリエジャーヌ氏の推薦があったようでした。波は私共のレフリーを終始見守って、メモを取っていてくれました。三千名は軽く越す大観衆の前いささかの緊張がないと言えばうそになりますが、かなり落着いた気分で審判できました。

アドバンテージをどう見るか、又歩幅の大きい人達のオーバーステップリズム感に真剣に対応いたしました。

しかし試合後何点かの反省材料が出てきました。2人でボールを追いすぎたためかPTを見落した点や、2m級の大男のプレーを近くで見過ぎ、反則が身体の陰にかくれて見のがすなど、位置取りの難かしさもありました。

フランス各地で皆様方の暖かい心使いを得て、審判に当りほとんど支障もなく過ごせましたが、コミニュケーションの道具としての語学力の大切さを強く感じました

終りに日本選手団の健斗と中沢団長・大西監督・平岡コーチの御苦労に敬意を表したいと思います

◇滞同レフェリー　世界学生選手権（ユニバシアード・ハンドボール）は大会規定第24条で、2名の国際公認レフェリーを選手団が同行させるよう義務づけている。同行しない場合は一定の負担金を払うが、日本はこれまで負担金のほうが滞同旅費より安いため、その方法を採っていた。

“自分の理念”“眼力”が不可欠

斉藤　実
（国際審判員 日体大OB）

▽世界学生選手権の審判を担当して

今回の世界学生選手権大会に参加が決まった時、自分の目標が達成できた喜びも当然ありましたがそれ以上に僭越ながら現地での我我のレフェリングが今後の日本ハンドボールレフェリー界の世界舞台への浮沈をかけた投石でもあることを考えるとその使命の大きさに圧倒されそうでありました。初めてで慣れてないからなんてことは理由にならないし国の威信をかけてぶつかり合うのをうまくさばき両チームが良い笛でありがとうと言わせなければならない。そこで私は今迄自分が吹いた国際試合のビデオ、特に全日本対西独・全日本対オーストリアを毎晩徹底的に洗い、自分のミスと思えるところ、うまく判定したところさらに全体の流れ等を再検討し心の準備としましたが問題は身体の大きいパワーのある者同士のハンドボールをまだ一度も見てないということが心配ではありましたがとに角自分達のレフェリングを思い切ってぶつけてみるという覚悟で出発しました。

さて今大会の審判割当のしくみですが、審判員は準備局に到着するとそこで予選リーグの配属が知らされ指定列車で目的地へ向います。我々はルーマニアペアとAグループを担当することになりました。当初はDグループの担当だったのがユーゴペアの不参加で出発時刻一時間前に急に変更になったのですが実はこの変更が後でも述べますが結果的には我々にとって非常に幸運でありました。試合当日の午前十時チーム代表、審判員開催地組織委員が集まり予選リーグ進行上の打合せで登録メンバーの確認・各ゲームごとのチームユニホームの色等を決め、そしてAグループはルーマニアと日本の審判で消化することを確認し第三者による抽選で担当する審判員が決定しました。その後のセミファイナルリーグ、ファイナルゲームの割当はどこで決めるのかはついにつかめませんでした。セミファイナルについては予想通り日本チームが絡むので日本ペアの割当てが無い旨中沢団長に組織委から連絡があり、ファイナルゲームはチーム代表者会議の折審判割当について話が出た様で後刻我々にも組織委から三位決定戦を担当することが決定した旨連絡がありました。他の世界大会ではどういう方法になるか判りませんが大同小異かと思われます。日本の大会前日に行なう審判会議に相当するものが無いため審判割当を決めるらしき人も判らずじまいになってしまいました。我々は今回の遠征では日本として初めての登場故、果して担当があるかどうか、最悪の状態ならば毎日見て歩るくだけになるかといろいろ思いを巡らせていたのが、フインランドの親善試合一つを含めて本大会予選リーグ前記三試合と思いもよらなかった最後の檜舞台であるファイナルゲームでの三位決定戦ユーゴスラビア対ソビエトを経験することが出来、まずよかったという実感ですが、これには前述のルーマニアのクリェジャーヌ氏とイアマンディ氏の全面的なバックアップと好アドバイスによるものと感謝しています。特にクリェジャーヌ氏はオリンピック、世界選手権を数多く経験している大ベテランで彼の精神的援助が初参加の我々にとって非常に大きな支えとなりました。以下彼のハンドボール感と実際に吹き、見て感じたことを述べてみますと先づ「故意の反則」であるか否かを見分ける眼力を養うこと。情景を文字で表現できませんが、故意のラフプレーはボールがきれいに動いていてもすぐ退場させており必然的におきた反則でもラフプレーにつながりそうだと判断すればその選手に注意を促し、観衆からも納得されるクリーンハンドボールにしようと皆が努力していたことが印象的でした。この故意であるか否かの眼力がしっかりしているならば身体の大きい者同士であれ小さい者であれゲーム展開をスムーズにさせ得る。この眼力を養なうためには経験を積むことが第一だが、ルールブックを毎日精読することによって許されるプレー許されないプレーが自然に頭の中に描かれてくるというのがアドバイスでした。次に任務の分担、我々二人が同時にイエローカードを示しながら警告したことから話しが出、CRがボールを、GKが他のプレーヤーの動きを見ることでレフェリーの眼の届かない盲点を作らないこと、この任務の分担がしっかりとれたペアなら一つのプレーに同時に警告することはあり得ないだろうと言われ、これに対して現在日本での二人同時に示す精神を説明したが、いやレフェリーは二人で一人だろうという考えを示され、種々むづかしい要素を含んでいるけれどその分担の基本的精神は充分理解でき、世界大会等の激しい試合になると特に任務の分担がしっかりしてはないと試合管理が困難になることは事実です。最後に自分のハンドボール理念をしっかり作ること。これは見学した幾つかのレフェリーを見て感じたことですが、あるペアは欧州遠征で笛の数を少なくしてできるだけ流すようにと指導された様ですが、これをそのコートにいる両チームの特徴を考えず、できるだけ流す、を適用したため一方に有利にあるいは不利になる内容になってしまった。我々は何人もの人からアドバイスを受ける機会がある。それらをただ鵜呑みにするのでなく、それを基本に自分の理念を持ってそのコートにいるプレーヤーの持味が充分発揮できる環境を作らねばならない。今度の経験と見聞から日本の審判審査委員会の指導は正しかったし、それをよくかみ締め自分のものとしてしっかりした理念を持ち経験を積むならば、世界のレフェリーに決して劣らないと確信したことを述べ書き尽せませんが報告といたします。

【斉藤・千野組】斉藤氏は42才、山梨・都留高教諭。
千野氏は41才、山梨・甲府一高教諭。両氏の間柄は甲府一高の先輩、後輩。

湧永薬品2連覇、大同の野望阻む

～激戦の第32回全日本総合選手権～

女子はジャスコが初の栄冠飾る

ナショナルチャンピオンチームの栄誉をかけた第32回全日本総合選手権は、昨年12月16日から20日まで東京体育館に、国内最高水準にある男子24、女子16チームが参加して、トーナメント法式で行われた。

モスクワ・オリンピック不参加の後遺症が心配されたが、各チームとも、さすがに新しい目標への切替えが早く、スタンドも活況を呈し、初の土曜日決勝（20日）は、三千五百のファンを集めるなど熱気がこもった。

男子は、学生勢が主力選手を世界学生選手権に送ったため迫力を欠いたが、日本リーグ勢の充実がその分をカバー、好試合がつづいた。

しかし、今年も湧永薬品(広島)、大同特殊鋼（愛知）の二強を破るチームは現れず、両者が5年連続して決勝戦で対決。絶好調の湧永が前半で得た優位を固い守りでキープ、大同の四大タイトル独占の野望を2年つづけて阻止するとともに2年連続4度目の〝日本一〟を飾った。

女子は、日本リーグの乱戦がそのまま持ちこまれ、連日、波乱のおこるかってない激斗となったが、準決勝で日本リーグ優勝の立石電機（熊本）を降した日本ビクター（茨城）と、復調・大崎電気（埼玉）をたたいたジャスコ（三重）が、2年連続、決勝戦に勝ちあがり、ジャスコが、後半のビクターの反撃をおさえ初優勝を遂げた。

これで、今年度の女子の四つのビッグタイトルは、すべてちがうチームの手によって握られることとなった。

なお、来年度の第33回大会は、今冬12月16日から20日まで東京体育館で行われる予定。

◆男子1回戦

三景（JHL・東京）	24	10－11	11－10	2－0 / 1－0	21	湯沢ク（全国社会人東地区・秋田）
全日大（開催地・東京）	40	22－12	18－10		22	日鉄建材（実連・大阪）
中村荷役運送（実連・東京）	26	15－7	11－11		18	中大（学連・東京）
千葉教員（教職連・千葉）	30	14－16	16－11		27	全宮崎（全国社会人西地区・宮崎）
トヨタ車体（実連・愛知）	23	12－11	11－11		22	筑波大（学連・茨城）
日体大（学連・東京）	24	13－10	11－8		18	滋賀教員（教職連・滋賀）
大崎電気（JHL・埼玉）	27	19－12	8－11		23	国士館大（学連・東京）

＝以上Aコート

自衛隊勝田（自衛隊連・茨城）	35	16－12	19－11	23	蒲郡ク（全国社会人中地区・愛知）

＝以上Bコート

○…Aコートでは、三景×湯沢クがいきなり延長の熱戦となった。

湯沢は前半5分のPT先取で波にのり、半田の巧みなカットインプレーを軸に着々と加点、20分8－5とリードを奪った。

三景は、前半終了まぎわから、ようやくリズムが出はじめ、点差を詰めはじめ、後半2分初めて先行した。

ところが守りがもろいため、再び湯沢の攻撃を受けて逆転を許し残り2分19－21と危かったのだが勝ち焦った相手のミスに乗じて2点をあげ延長。

こうなると三景のペースとなり中馬、工藤などが疲れののぞく湯沢を押しこんで辛くも勝利を得た湯沢クの善戦が賞される。

千葉教員×全宮崎ももつれた。2点を追う千葉が、後半2分16－16としてからは、まったく予断を許さぬ展開となり、残り8分24－24から千葉が4点連取、勝負を決めたかにみえたが、宮崎も船木の連続ゴールで粘った。

しかし、老巧揃いの千葉は残り3分浅原で29－26とし、どうにか逃切りのメドをつけた。

注目の中村運輸がデビューを飾った。主力を欠く中大とはいえ、西窪の好リードから前半の6点連取など気合の入ったプレーは、なかなか見事。

中大は、ディフェンスの組織力に欠け、中村運輸の引き立て役に廻ってしまった。

全日大が、日本リーグ所属の日鉄を一方的に破った。

個人技が巧くまとまり前半で勝負をつけたのが勝因だ。

○…Bコートでは、トヨタ×筑波大が面白かった。

残り5分19－22とピンチの筑波大は最後の力をしぼり3点連取してタイ、勝運に乗ったかとみえたが、トヨタは残り40秒萩原が貴重な勝ちこしシュートを決め、初勝利をあげた。

トヨタは、立ち上り0－3から一気に4－3とするなど元気な試合ぶりで、得点源を世界学生（フランス）へ送った筑波の攻守を上廻った。その意味では順当勝ちといえる。

大崎×国士館大は、国士館が後半のはじめ3点を奪い15－19、興味を抱かせたが、大崎は長野、佐伯の好プレーで優位をキープ、20分25－19として相手の粘りを振り切った。

日体大×滋賀教員は、滋賀の粘りで後半10分すぎまでせりあいとなった。

ところが、ここで日体のスピードプレーに滋賀の守りが乱されはじめ連続3本のPT失点、20分20－15と開き、さらに2本のPTがあって勝負がついた。

実力互角とみられた勝田×蒲郡クは、勝負のかかった後半、勝田がいきなりスパートして6点連取10分22－13と大差がついた。

蒲郡は、鈴木（元三陽商会）が一人で10ゴールを叩き出す活躍を示した。

早大、三景をはねのける

▽同2回戦

早大（学連・東京）16（6−7 10−8）15 三景
大阪イーグルス（教職員連・大阪）29（15−8 14−9）17 全日大
日新製鋼（JHL・広島）20（11−11 9−7）18 中村荷役運輸
大同特殊鋼（JHL・愛知）36（14−9 22−4）13 千葉教員
栃の葉ク（教職連・栃木）35（15−15 20−9）24 トヨタ連体
＝以上Aコート

三陽商会（JHL・東京）39（20−13 19−9）22 日体大
本田技研鈴鹿（JHL・三重）28（12−15 16−8）23 大崎電気
湧永薬品（JHL・広島）44（38−9 16−8）17 自衛隊勝田
＝以上Bコート

○…Aコートでは早大が学生チャンピオンらしい気力で、主力の抜けたハンデをはねのけ三重を降した一戦が光った。

早大は1分に失った1点をすぐに取り返し10分5−2としたが、三景も巧みな攻撃で16分5−5、一進一退から早大がやや押し気味となった。

後半三景は中馬とPTでタイ（10−10）、残り5分14−14とせり合った。

ここで早大は阿部が失格を宣せられ、ピンチとみえたが、直後のPTを吉井が決め15−14。

三景も27分地主園で15−15、コートサイドを沸かせたが、早大は28分40秒田畑のロングであげた1点を必死に守り切り、学生勢の面目を保った。

中村運輸の実力を試す試合といわれた日新戦は、日新が後半20分18−11と開いて貫禄を示したものの、中村はそのあと猛反撃するなど初陣らしい試合ぶりで好印象を与えた。

日新は前半ややもたついたが、後半はじめ、吉見の活躍でリードを拡げ、その後もPTなどを活かし着実に加点。中村の粘りで力のこもった試合になったが、やはり日新には「日本リーグ」の余裕がつねにのぞいていた。

4冠を目指す大同は、千葉を相手に小手試し。千葉は最後まで頑張ったものの、力の差がありすぎた。

○…Bコートでは、復調を伝えられる大崎が本田技にどう挑むか注目された。

スタートは大崎が好調で5分4−2、7分5−3と先行したが、本田は10分すぎから本調子となり一気に逆転、特にディフェンスの出足がよく、大崎は10分以降は3点をマークしただけだった。

このあたり、大崎の攻めにもう一つ工夫が欲しい。

後半、大崎は長野の巧技で本田と互角に打ち合ったが、点差はほとんど縮らず、突き放された。

栃の葉×トヨタは、トヨタの元気がどこまで通じるかがカギだったが、栃の葉はいきなり9点を奪う速攻で、トヨタの出バナを完全にくじいた。

トヨタは後半になってようやく攻撃がまとまりはじめたが、すでに10点差、勝利には遠かった。

三陽×日体も期待の割にあっさり勝負がついた。

三陽は関がよく当たり、山口も要所で巧技を発揮、15分12−4と開いたうち10点をこの二人がかせいだ。

後半になっても日体は、ほとんど無策で三陽のなすがまま、15分28−15とされた。

最終戦登場の湧永は10分5−3と勝田の先行を許す序盤だったがすぐに立ちなおり8分からの連続7ゴールなどであっという間にダブルスコア、後半も山本の多彩なプレーが冴えわたり、勝田のディフェンスはゆさぶられどおしだった。

勝田では相変らず額賀と藤枝のプレーが目についた。

イーグルス、日新降す

▽同準々決勝

大阪イーグルス 21（13−8 8−11）19 日新製鋼

【日新】		得
GK	三田	0
	西川	0
FP	泉	1
	徳田	2
	大庭	1
	吹上	0
	洞ケ瀬	2
	脇若	0
	森	2
	吉見	11
	日野	0
	甲斐	0

【大阪】		得
GK	広川	0
	本田	0
FP	源野	2
	足羽	0
	大西	2
	河原崎	2
	早川	1
	福井	7
	辻本	6
	三谷	1
	勝本	0
	千野	0

（審・槇田、三枝）

21（3）PT（2）19

○…日本リーグでは25−22日新の勝ち。イーグルスはこの1敗で

歴代チャンピオンチーム

	【男子】	【女子】
昭12	大塚ク（東京）	………
昭13	日体専（東京）	………
昭15	日体専（東京）	倉敷高女（岡山）
昭17	日体倶楽部（東京）	倉敷高女（岡山）
	～以上戦前の全日本選手権～	
①昭25.1	日体桜（東京）	愛知ク（愛知）
②昭25.11	スワロー松（東京）	全山梨（山梨）
③昭26	東京スワロー・ク（東京）	東京芙蓉ク（東京）
④昭27	セントポールA（東京）	～休会～
⑤昭28	全日体大（東京）	全静岡城北高（静岡）
⑥昭29	全日体大（東京）	全静岡城北高（静岡）
⑦昭30	西日本日体OB（福岡）	水海道二高（茨城）
⑧昭31	全日体大（東京）	半田高（愛知）
⑨昭32	全日体大（東京）	愛知紡績（愛知）
⑩昭33	全日体大（東京）	愛知紡績（愛知）
⑪昭34	芝浦工大（東京）	愛知紡績（愛知）
⑫昭35	芝浦工大（東京）	愛知紡績（愛知）
⑬昭36	芝浦工大（東京）	愛知紡績（愛知）
⑭昭37	大崎電気（埼玉）	愛知紡績（愛知）
⑮昭38	立教大（東京）	大洋デパート（熊本）
⑯昭39	大崎電気（埼玉）	大崎電気（埼玉）
⑰昭40	大崎電気（埼玉）	大洋デパート（熊本）
⑱昭41	全立教（東京）	大崎電気（埼玉）
⑲昭42	大崎電気（埼玉）	田村紡績（三重）
⑳昭43	全立教（東京）	大洋デパート（熊本）
㉑昭44	全立教（東京）	大洋デパート（熊本）
㉒昭45	大崎電気（埼玉）	大洋デパート（熊本）
㉓昭46	大崎電気（埼玉）	日本ビクター（茨城）
㉔昭47	湧永薬品（大阪）	東京重機（東京）
㉕昭48	大同特殊鋼（愛知）	日本ビクター（茨城）
㉖昭49	大同特殊鋼（愛知）	東京重機（東京）
㉗昭50	大同特殊鋼（愛知）	日本ビクター（茨城）
㉘昭51	湧永薬品（広島）	立石電機（熊本）
㉙昭52	大同特殊鋼（愛知）	日本ビクター（茨城）
㉚昭54.1	大同特殊鋼（愛知）	ブラザー工業（愛知）
㉛昭54.12	湧永薬品（広島）	日本ビクター（茨城）
㉜昭55	湧永薬品（広島）	ジャスコ（三重）

入れ替え戦（1月）出場のハメをみただけに雪じょくの斗志盛んなものがあった。

その気力が後半15分13—16、22分16—19という劣勢をはねかえす試合ぶりとなった。

残り10分を切ってこの点差は、最近の日新のチーム力からみて、イーグルスの逆転は難しいとみえたが、GK木田が鮮やかなプレーで終盤8分間無得点におさえた好守に盛り立てられ26分福井で同点（19—19）、28分河原崎、28分20秒福井とたたみかけて、勝利をもぎとった。

日新は、前半の初めこそ相手の先行を許したが、10分すぎから吉見の豪快な攻撃を軸に主導権を握り、八分通り勝利を手にしていたイーグルスの老巧さが久々に発揮された一戦といえる。

本田技研鈴鹿 22（11—5、11—11）16 三陽商会

	【本田】	得	【三陽】	得
GK	柴田	0	吉近	0
GK	大畑	0	田村	0
FP	田上	3	関	2
FP	佐藤	4	金子	0
FP	喜井	6	坪子	1
FP	豊岡	0	稲木	0
FP	佐々木	3	山口	6
FP	矢野	4	石原	0
FP	長野	1	斉藤	0
FP	谷元	0	鶴沢	3
FP	坂本	1	尾形	4
FP	松木	0		

（審・新村、井上）

22（3）PT（2）16

○…三陽が粘りをみせて本田技と互角に打ちあったため熱のこもった前半となった。

本田技はいきなり3—0としたが、三陽は山口の活躍で持ちなおし15分すぎからは一進一退、激しく点を取り合った。

しかし、後半5分12—12のあと本田技は、疲れののぞいた三陽ディフェンスを田上、矢野らが突いて先行しはじめ15分17—13。さらに攻撃の手をゆるめ20分19—14として勝負を決めた。三陽は守りの崩れとともに、攻撃も相手GK柴田に封じこまれ、後半はよいところがなかった。（山下）

湧永薬品 27（13—6、14—4）10 栃の葉ク

	【湧永】	得	【栃葉】	得
GK	大城	0	岩下	0
GK	福井	0		
FP	津川	4	川田	0
FP	生駒	4	中山	4
FP	穂積	2	小西	0
FP	藤本	2	越前	3
FP	志賀	2	滝口	1
FP	戸田	2	松井	1
FP	内田	0	名嘉	1
FP	松木	2	斉藤	0
FP	山本	6	大出	0
FP	池ノ上	3	二宮	0

（審・清水、岡本）

27（4）PT（0）10

○…栃の葉が斗志を前面に出して臨んだため、緊迫感に満ちた立ち上りとなった。

総合力で一枚も二枚も上の湧永が山本、穂積の巧技で10分5—1とした時はあっさり大勢が決まるかとみえたが、栃の葉は松井、中山滝口らの連取で15分4—6と食い下った。

ところが、このあたりからディフェンスの差がのぞきはじめ、湧永が8点を加えたのに対し、栃の葉は後半4分までノーゴール、一方的な経過になってしまった。

栃の葉は、やはり国体時のようなまとまりがなく、完敗も止むを得ない。

大同特殊鋼 26（11—5、15—7）12 早大

	【大同】	得	【早大】	得
GK	柳川兄	0	譲原	0
GK	山木	0	菊島	0
FP	中井	2	吉井	2
FP	松原	0	荒木	0
FP	花輪	1	阿部	0
FP	柳川弟	4	北島	2
FP	大原	7	牧野	0
FP	中本	1	小山	4
FP	浦田	4	関口	0
FP	蒲生	5	田畑	3
FP	更谷	0	村越	1
FP	小野	2	村田	0

（審・狩野、光島）

26（4）PT（2）12

○…「学生チャンピオン」の名にかけても、と学生勢で唯一つ勝ち残っていた早大も総合力で差があるうえ、村崎、東根、植村の主力アタッカーを世界学生に送りこんだハンデは、あまりにも大きい。10分4—6まで粘っていたもののしだいに大同の攻撃をささえ切れなくなり、点差があいた。

大同は後半10分18—7としたあたりからペースを落したが、早大は散発的にポイントするだけ、どうにもならなかった。

本田技研の守り崩れる

▽同準決勝

湧永薬品 25（15—9、10—6）15 本田技研鈴鹿

○…動きに固さののぞく両チームは、相手GKの堅守もあって20分4—4とスコアがのびず、重苦しいムードとなった。

	【湧永】	得	【本田】	得
GK	福井	0	柴田	0
GK	大城	0	大畑	0
FP	津川	3	田上	2
FP	山本	6	佐藤	8
FP	池ノ上	6	喜井	2
FP	穂積	4	豊岡	0
FP	戸田	4	佐々木	1
FP	松木	0	坂本	2
FP	志賀	0	矢野	0
FP	生駒	2	長野	0
FP	藤本	0	谷元	0
FP	内田	0	吉山	0

（審・上久保、北井）

25（3）PT（1）15

その緊迫を破ったのは津川の好リードから戸田、穂積、山本らが動きはじめた湧永で、5分ほどの間に4点をあげた。

これに対し本田技は、それまでの全得点を佐藤（監督）があげたことから、あまりにも彼にボールを集めすぎ攻撃が単調、湧永の守備網に引っかかった。

後半になると湧永の攻撃は、いっそうなめらかとなり、速攻、セットと多彩に展開され10分17—7と勝負のヤマを越えた。

湧永の攻め口の豊富さに比べ、本田技は佐藤のワンマンプレーの色が濃すぎた。

また、守りのマークも両チームには差があり、むしろ勝敗は、攻撃よりも守備力で決まったともいえる。（狩野）

大同、イーグルス突き放す

大同特殊鋼 31（15—8、16—5）13 大阪イーグルス

○…イーグルスは2分先取点したあとは13分、20分にスコアしただけ、この間に大同は柳川弟のスピードプレー、中井の巧技などで







大同 得	大同		大阪	大阪 得
0	柳川兄	GK	本田	0
0	山本	GK	広川	0
5	中井	FP	源野	4
8	蒲生	FP	足羽	0
1	松原	FP	福井	1
4	柳川弟	FP	大西	3
4	大原	FP	辻本	3
3	中木	FP	勝木	1
2	浦田	FP	河原崎	0
2	花輪	FP	早川	0
2	小野	FP	千野	0
0	藤中	FP	三谷	1
31	（2）	PT	（0）	13

（審・大塚、佐分）

10点をあげ、あっさり主導権を握った。

後半に入っても大同の猛攻は止まず、10分まで8ゴールを加え、大勢を決めた。

大差がついたせいか、両チームとも雑なプレーが多く、全日本の準決勝としては盛りあがりに欠けスタンドを失望させた。

湧永、ディフェンスの勝利

▽同決勝

湧永薬品 20（11—8、9—6）14 大同特殊鋼

湧永 得	湧永		大同	大同 得
0	福井	GK	柳川兄	0
0	大城	GK	山本	0
4	津川	FP	中井	1
3	穂積	FP	大原	2
5	山本	FP	蒲生	8
2	松本	FP	柳川弟	2
1	戸田	FP	中本	0
5	池ノ上	FP	花輪	1
0	志賀	FP	松原	0
0	生駒	FP	浦田	0
0	藤本	FP	小野	0
0	内田	FP	藤中	0
20	（3）	PT	（5）	14

（審・光島、狩野）

○…決勝リーグ制時代を加えると実に6年連続の両者対決。最近10試合の勝敗は、大同が6勝1分3敗とリードしているが、その総得点になると155—150とほぼ互角。大同に2度目の4冠独占の野望がかかれば、そうはさせじとする湧永の気力、伯仲。

スタンドも両チームが繰り出した応援団を軸に、三千をこすファンで賑い、かつてない高潮したムードのなかで、ホイッスルが鳴った。

先制したのは湧永。2分山本、3分戸田で2—0、大同も4分蒲生、5分柳川弟で同点に追いつき、序盤からさすがに汗を握らせた。

この均ころは16分5—5までつづくが、わずかに湧永が押し気味たえず先手をとって進めた。

「大同に勝つには先行、それも前半で3点差は欲しい」といっていた木野監督だが、ここでその希望が果たされる。

17分山本、18分池ノ上と決めたあと21分穂積で8—5だ。

大同はめずらしく射ち急ぎなどあって8分間無得点。

ゲームメーカー・中井が志賀にマークされ、思うようにボールが廻らない。それに守りのリズムも狂っている。

22分PTで1点を返したが、すぐ1ゴールを奪い返され、25分花輪が7—9と詰めたが、湧永の速い仕掛けにディフェンスがつききれず連続2点を失った。

大同は残り1分、ようやくPTで8—11としたものの、湧永が波にのっているのは、誰の目にも明らかだった。

○…10分間のハーフタイムが、両者のペースをどう変えるか、とりわけ大同の立ちあがりに興味がかけられたが、これだけの大チームでも、決勝というビッグカードで狂ったリズムは、簡単には取り戻せない。

10分間ノーゴールに終ったばかりか、この間に4点を失って8—15と、かつてない差をつけられてしまったのだ。

それでも、このあと、逆に湧永を9分間無得点におさえ、二本のPTなどで3点を返し11—15としたのはさすがだったが、湧永は19分津川のゴールで落ち着き、あとは一息に、2年連続の王座へ突走った。

湧永の勝因は、大同を攻めまくった攻撃の鋭さ、多彩さにあるが終始手固いプレーをみせたGK福井の沈着と、FP陣が〝四冠阻止〟に燃えて、大同攻撃陣に余裕を与えなかったことも見逃せない。

逆に大同としては、これほど封じこまれた経験がないだけに、各選手のプレーは戸まどいさえ見うけられた。

ビクター、立石電機を破る

◆女子1回戦

筑波大（学連・茨城）15（10—3、5—8）11 東京重機（JHL・東京）

立石電機（JHL・熊本）26（16—1、10—2）3 大阪体大（学連・大阪）

ブラザー工業（JHL・愛知）26（17—7、9—6）13 彦根BSク（全国社会人・滋賀）

日本ビクター（JHL・茨城）27（15—6、12—6）12 日女体大（開催地・東京）

北国銀行（JHL・石川）14（10—6、4—5）11 日体大（学連・東京）

日立栃木（JHL・栃木）18（6—5、12—0）5 武庫川女大（学連・兵庫）

＝以上Aコート

大崎電気（JHL・埼玉）23（12—9、11—7）16 ムネカタ（実連・福島）

ジャスコ（JHL・三重）30（17—4、13—4）8 大和銀行（実連・大阪）

＝以上Bコート

○…注目の筑波大×重機戦は、10分1—1から筑波の動きがにわかに滑らかとなり、鈴木のロングシュートなどで、たてつづけに重機ゴールを貫き、20分9—2と差を開いた。

重機は、劣勢に立ってからも、再三チャンスはあったのだが、ノーマーク速攻やPT失敗などが重なり、後半10分12—3と大差をつけられた。終盤、寺西、沖山らで反撃しただけに、それまでの崩れが悔やまれよう。

ビクター×日女体大は、日女が0—3から石井、金井、大森らで盛り返し13分6—6とせりあったが、地力に優るビクターはそのあと連続12ゴール、一気に勝負を決めた。

ブラザー×BSクは、ブラザーが、安定感を増した杏原のロングを主体に攻めこんだ。BSクはGK西村の好守がなければ、もっと差を拡げられただろう。

立石×大体大は、立石が1分喜久山のゴールを口火に連続16ゴールの快攻をみせた。

○…Bコートは、点差の割に面白い試合がつづいた。

北国×日体大は、日体が後半6—11から三本のPTを活かして2点差とした。

北国は、この急迫にプレーが荒くなり10分近く無得点だったが、13分のPTと14分八木でどうにか優位をキープ、逃げ切った。

日体は前半20分5—6のあと、北国の攻撃をやすやすと許した守りのもろさが敗因である。

日立×武庫川女大は、武庫川が1—3から富田、清水らで4—3と逆転、チーム力の高さをうかがわせたが、やはり実業団はプレーが〝強い〟。

武庫川のディフェンスの当りをはねのけて手打、水上らが技と力で得点、特に後半は、守りの立ち

直りもあって、日立がワンサイドで試合を進めた。

大崎×ムネカタは、日本リーグ一部復帰を目指すムネカタの試合ぶりに期待がかけられたが、大崎は20分7—7のあと、チャンスを確実に活かしてリードを奪い、後半開始直後の3点連取で15—9、勝利を決めた。

ムネカタは、せり合いながらもいちど崩れるともろい弱点をのぞかせ、序盤の健斗を実らせられなかった。

ジャスコ×大和は、大和が10分までに三本のPTを課せられ、ジャスコの先制を許してしまった。

大和としては、自軍のペースに引きこまねば勝機がないだけに、この守りの失敗は痛い。

主導権を簡単に手に入れたジャスコは、攻守とも余裕充分で、若手を使いながらもゴールの荒かせぎをした。

立石、10秒前に結着

▽同準々決勝

立石電機 13（7—6、6—6）12 ブラザー工業

	【ブ工】	得	【立石】	得
GK	尾比久	0	井村	0
GK	中村	0	荒木	0
FP	杏原	4	姫野	0
FP	竹内	4	桑原	1
FP	則武	1	木下	2
FP	塩谷	1	紀野	4
FP	増永	0	藪田	6
FP	植田	2	羽立	0
FP	山村	0	喜久山	0
FP	尾崎	0	亀園	0
FP	松下	0	是枝	0
FP	宮本	0	近藤	0

（審・北井、上久保）

13（4）PT（2）12

○…一部の人たちは「事実上の決勝戦」と評価した好カード。

はたしてすばらしい攻守の応しゅうでスタンドを沸かせた。しかもフィナレーは立石が残り2分11—12から、藪田の同点ゴール、さらに残り10秒、またも藪田が切れ味のあるロングをとばして、みごとに決勝点をあげるという逆転劇。

先行したのは立石。前半17分6—2は、楽勝のペースだったが、そのあと得点がパタリと止って、ブラザーの追いこみをうけ、後半5分には8—8とされた。

しかし、すぐに木下、藪田で10—8、立ちなおったかにみえたのだが、ブラザーも10分のPTと竹内で追いすがり、13分塩谷が勝ちこしゴールをあげる迫力を示した。

立石は再びスランプ、約10分無得点で、20分やっと紀野が同点打（11—11）を決めれが、直後、杏原のロングを契し、完全にブラザーのリズムとなった。

結果的には、ブラザーがここでもう一押しできなかったことが、立石の劇的な逆転への下地となり、ブラザーは、みすみすタイトルへの道を閉ざした。

立石は、再三のピンチを、最少限の傷でつなぎとめたのが大きい。

これでダブル・タイトルへ大きく前進した。

大崎電気 12（8—5、4—3）8 日立栃木

	【日立】	得	【大崎】	得
GK	寺沢	0	藤村	0
GK	斉藤	0	梅野	0
FP	吉田	2	西	6
FP	大輪	1	陽田	0
FP	箕輪	0	根間	0
FP	小根沢	0	石井	0
FP	水上	3	渡部	1
FP	毛塚	0	徳渕	4
FP	西山	0	江島	0
FP	栗原	0	宮嶋	0
FP	手打	0	西嶋	1
FP	前田	2	嘉本	0

（審・佐分、大塚）

12（1）PT（3）8

○…エース島田を負傷で欠く日立は攻守ともに鋭さがなく、いきなり0—4とされ、この負担を最後まではねのけられなかった。

それだけに大崎の好スパートはみごとといえる。

特に、西が2、3分連続してゴールを決めてチームを引っぱり、15分5—3と詰め寄られたあとにも2点（PT1）を決めた活躍は光る。

日立は、この西を途中からマンツウ・マンでおさえにかかる一方反撃に移ったが、調子づいた大崎の守りを切り崩せず、後半は24分に初のフィールドゴールという貧攻、自滅ともいえる試合ぶりだった。

ジャスコ 19（10—7、9—3）10 北国銀行

	【北国】	得	【ジャ】	得
GK	酒谷	0	山本一	0
GK	辻	0	矢部	0
FP	中山	1	松下	2
FP	本田	1	林	0
FP	木戸	1	山本二	4
FP	千歩	6	横山	1
FP	木内	1	宮崎	0
FP	八木	0	若田	1
FP	西出	0	松岡	1
FP	坂	0	辻本	9
FP			重村	0
FP			岩林	1

19（5）PT（3）8

○…前半15分までは、激しい点のとりあいだったが、しだいに速攻のつなぎ、セットオフェンスからの攻め口多彩なジャスコが点差をつけはじめた。

後半になると、ますます動きの差が出はじめ10分14—7、15分17—8と開いて、勝負が決まった。

北国にとって、前半の3点差はけして重荷とはみえなかったが、ラフプレーから退場者を出すなど自から追撃の芽をつみとり、傷口を拡げてしまった。（北井）

日本ビクター 22（11—5、11—6）11 筑波大

	【筑波】	得	【日ビ】	得
GK	伏見	0	渡辺	0
FP	小林	5	染谷	5
FP	吉沢	0	小島	4
FP	鈴木	4	伊藤	3
FP	山口	2	加藤	5
FP	河原	0	岩城	1
FP	中山	0	志村	4
FP	岩本	0	池田	0
FP	上水流	0	村上	0
FP	小西	0	中根	0
FP	山田	0	大熊	0

（審・後藤、島田）

22（2）PT（3）11

○…学生チャンピオン×実業団チャンピオン。筑波が0—3のあと小林、鈴木(PT)で3—3としたあたりは、先ゆきに期待をもたせたのだが、ビクターは加藤がすばらしい突進をみせて、若い相手守備網を破り、伊藤、志村の巧技もあって15分10—3、その後は若手中心に試合を進めるなど、筑波大を押しまくった。

筑波大は、時おり鋭いプレーをみせたが、そうした攻守が連続せ

ず、特にディフェンス力の差は歴然としている。この面の強化がないと、学生勢はこれからも実業団の壁を越えることはできまい。

大崎、惜しい速攻の失敗

▽同準決勝

ジャスコ 17（10－8, 7－5）13 大崎電気

	【大崎】	得
GK	藤村	0
GK	梅野	0
FP	西	5
FP	陽田	2
FP	根間	0
FP	石井	5
FP	渡部	0
FP	徳渕	0
FP	江島	1
FP	宮嶋	0
FP	西嶋	0
FP	嘉本	0
PT		（2）13

	【ジャ】	得
GK	山本一	0
GK	矢部	0
FP	松下	4
FP	横山	1
FP	辻本	4
FP	山本二	5
FP	若田	1
FP	宮崎	0
FP	平田	0
FP	林	0
FP	松岡	2
FP	合理	0
PT		17（4）

（審・槇田、三枝）

〇…大崎はエース西が前日につづいて得意のロングを快調にとばし、一方、ジャスコは巧者・松下を軸に速攻、カットインでポイントをあげた。

ジャスコは前半20分6－7から4点を取り、どうにかペースを握り、後半開始直後、松下がPTを含む3点連取で13－8としたのが大きかった。

大崎は、それまでのリードをこの10分間でフイにしてしまったことになり、この試合のヤマ場といえた。

大崎は10分、石井の連続ゴールで10－13と食い下る姿勢をみせたが、結局、迫い切れず敗れたが、前半7－6のあと、二本の速攻をノーマークにしながら落した失敗も悔やまれる。

ジャスコでは、再三の危機を防いだGK矢部の好守を勝勝としてはずせない。

（岡本）

ビクター、巧みに勝機握る

日本ビクター 16（9－6, 7－7）13 立石電機

	【立石】	得
GK	井村	0
GK	荒木	0
FP	紀野	9
FP	木下	1
FP	嬉野	1
FP	桑原	1
FP	薮田	1
FP	羽立	0
FP	喜久山	0
FP	近藤	0
FP	亀園	0
FP	是枝	0
PT		（6）13

	【日ビ】	得
GK	渡辺	0
FP	染谷	0
FP	小島	7
FP	池田	0
FP	加藤	3
FP	岩城	1
FP	伊藤	4
FP	志村	1
FP	村上	0
FP	中根	0
FP	大熊	0
PT		16（6）

（審・島田、後藤）

〇…日本リーグ、国体を不調のうちに終らせたとはいえ、やはりビクターは、前年の女王であったブラザー戦をのりこえ、日本リーグとの二冠の公算を強くしている立石とでは、どうみてもブが悪かったのだが、前半8分4－4から加藤、小島の両ベテランが連続4点を奪った抜け目のない試合運びで勝利を呼びこんだ。

波にのり、どうしても気持ちが前へ行く立石FPの攻撃を見すかしてのカットや逆襲での得点が大半で、立石はすっかり、相手の勢いにのまれてしまった。

もちろん立石も、ずるずると後退したわけではない。

後半開始直後、紀野の2点で8－9と粘り、15分10－13は逆転の望みも残っていた。

しかし、ビクターは、チャンスを積極的に射って出てリードを守り、22分15－12から小島がダメを押した。

立石は、攻撃にやや波があり、特に前半8分から13分間ノーゴールの貧攻が響いた。

ビクター猛追及ばず

▽決勝

ジャスコ 20（12－7, 8－8）15 日本ビクター

	【日ビ】	得
GK	渡辺	0
FP	小島	5
FP	染谷	2
FP	池田	1
FP	加藤	2
FP	志村	3
FP	伊藤	1
FP	岩城	1
FP	村上	0
FP	中根	0
FP	大熊	0
PT		（4）15

	【ジャ】	得
GK	矢部	0
GK	山本一	0
FP	松下	4
FP	横山	4
FP	山本二	3
FP	辻本	9
FP	平田	0
FP	林	0
FP	若田	0
FP	松岡	0
FP	宮崎	0
FP	今里	0
PT		20（6）

（審・上久保、北井）

〇…ジャスコが先制に成功、その勢いを持ちこんで、宿願の全日本制覇を成し遂げた。

勝負は決勝らしく終盤10分間に持ちこまれた。

スコアは16－14、ジャスコのリードだったが、ビクターにとっては、充分の射程距離。

しかも、ビクターには7－14から一気に点差を詰めた勢いがあった。

ところが17分、ジャスコの攻撃に、「もう1点も与えられない」とばかりに強引な守りをかけすぎこれがPT、ジャスコは松下が決めて17－14。この一投で、流れは再びジャスコの方へ傾いた。

前半10分速攻を中心に7－2と圧倒的優位をとりながら追い上げられただけに、守りも慎重だった。

攻め急ぐビクターの切りこみをじっくりと見て、シュートまで持ちこませない。

こうなると再び攻めにもリズムが出る。21分横山が持ちこんで18－14、ほぼ安全圏、23分PTを松下が決めて、優勝が確定した。

それにしても、ビクターの気力はすばらしかった。

結果的には、ジャスコが立上りの〝貯金〟を活かしたことになりいちどもリードを許さなかった点に勝因があるが、試合中は、ほとんどその経過を思い出せなかったそれほど、リードされていてもビクターのプレーは力がこもっていたわけである。

後半17分のPTの明暗が、試合の行方を微妙に左右するという、いかにも大型チーム同上の決勝らしいドラマチックな試合だった。

この結果、今シーズンの女子ビッグタイトルは全日本実業団選手権（5月）が日本ビクター、国体（10月）が日立栃木、日本リーグ（11月）が立石電機、全日本総合（12月）がジャスコと〝分散〟した。

このようなケースは男女を通じ史上初めてである。

大会ガイド

神戸で男子実業団トーナメント

第12回全国男子実業団トーナメントが、2月7日から9日まで神戸の王子スポーツセンター体育館（7、8日は神戸中央体育館併用）に、全国16都府県から32チームが参加して行われる。

拡充をつづけている実業団球界にあって、このトーナメントは、回毎に新進チームのかっこうの目標となっている。

この大会で二、三年上位を占めたら本格的な補強を、と考える企業も増えて、チームの熱気も盛んなものがある。

発表された組み合せからみた上位争いは、当然のことながら、日本リーグ2部加盟の自衛隊勝田、セントラル自動車、トヨタ車体が中心になるものと思われる（注・日鉄建材は不参加）。

このほかの有力チームは、前年1位の東京重機、同2位の新日鉄大分、常連の神戸製鋼、丸善石油下津、金沢市役所、自衛隊球界のトップチーム・陸上岩国、海上下総らであろう。

また、発足一年足らずの中村荷役運輸も関係者の間で、評判がいい。昨年くれの全日本総合選手権（東京）で、主力を欠いていたとはいえ学生界のトップ・中大を破り、日新製鋼（広島、日本リーグ4位）に、2点差の惜敗というチーム力は、なかなかのものだ。

順調にいけば、ベストエイトの顔合せは、自衛隊勝田×中村荷役運輸、セントラル自動車×新日鉄大分、トヨタ車体×神戸製鋼、日本発条×東京重機となるだろう。

このうち、日本発条は、1、2回戦同じレベルのチームに囲まれており、大阪ガスあたりの進出も考えられる。

この8チームには、すべて優勝のチャンスがあり、予断を許さないが、思い切って展望すれば、準決勝へは、中村荷役運輸、セントラル自動車、トヨタ車体、東京重機の進出ではないか。中村×勝田は大会屈指の好カード、新日鉄大分も腕をあげているだけに、セントラルも油断はできないが、やはり日本リーグでもまれている経験が、最後は活きよう。

地元・神戸製鋼の元気を考えるとトヨタは楽な展開ではなかろうが、キャリアを活かし勝ちあがるとみたい。

トヨタ×神戸は、51年と52年、連続でこの大会の決勝で対戦、トヨタが連勝している。

これらのチームから栄冠を手にする勝者を予測するのは困難に近いが、戦力的には中村×トヨタの決勝と考えるのが順当。

もっとも、この大会は波乱がつきものだ。

上位の顔ぶれは、つねに意外性に富み、したがって勝者も、思わぬところから出てくる。

これまでに名のあがったチーム以外でも、丸善石油松山、新日鉄名古屋、金沢市役所、川崎製鉄水島、自衛隊福島、武田薬品光など好チームは多く、期待できる。



男女16校で熱戦

今春の高校選抜大会

日本協会は、3月25日から27日まで名古屋の愛知県体育館で行われる第4回全国高校選抜大会の実施要項を発表した。

それによると本誌191号既報のとおり、参加校がこれまでの男女各10校から、各16校に増大されたのが注目される。

参加校は、全国高体連の布く9ブロックから別表のように配分される。

選手の資格が1、2年生に限られるのは、これまでどおり。

◇第4回全国高校選抜大会ブロック別代表校数

	男子	女子
北海道	1	1
東北	2	2
関東	2	2
北信越	1	1
東海	2	2
近畿	2	2
中国	2	2
四国	1	1
九州	2	2
愛知県	1	1
計	16	16

3月末に韓国社会人来日

全日本実連は、3月21日から31日まで恒例の日韓社会人交流を男女とも日本で行なうことを決めた。

今年度の日韓社会人交流は、男子が遠征、女子が訪韓の番だったが、昨年6月に予定された男子が韓国側の事情で延期となり、このほど韓国協会と全日本実連との話し合いで、両交流同時に日本で行うことがまとまったもの。

男女とも各6試合の予定で、来日チーム名と日程は、2月中旬に発表される。

ムネカタ復帰

（速報）日本リーグ入れ替え戦は1月30日から2月1日まで行われ、男子は大阪イーグルス、三陽商会が2部勢の排戦をおさえ残留。

女子は北国銀行は残留、ムネカタが復帰した。1部勢から2勝をあげた大和銀行は規定で昇格を逸した。

早稲田，6年ぶりで王者に　日体の連勝ストップ

第23回（女子第16回）全日本学生選手権は，12月3日から7日まで大阪市中央体育館と東淀川体育館に，男子24校，女子15校が参加してトーナメント方式で行われた。

今大会から，東西推薦制を軸とした参加校縮少により開催された。

男子では早稲田大学が6年ぶり2度目の優勝を果し，日体大の4連覇を阻んだ。

女子は筑波大学が前半の2点差をはね返し，日体大を破って初優勝した。

全日本学生　女子は筑波大が初の栄冠

▼男子1回戦

国士館大 33（15－11 18－7）18 中部工大

関西学院 31（15－6 16－7）13 鹿児島大

広島工大 23（10－12 13－7）19 関西大

九州産大 31（18－9 13－6）15 東北学院

慶応大 24（12－11 12－12）23 近畿大

中央大 33（17－7 16－8）15 信州大

同大 23（14－6 9－9）15 函館大

日本大 19（2－1 1－0 ： 5－7 11－9）17 大阪経大

国士館、大阪体大破る

▽同2回戦

国士館大 19（9－9 10－9）18 大阪体大

早稲田大 16（10－9 6－5）14 関西学院

法政大 23（11－11 12－10）21 広島工大

日体大 26（13－3 13－6）9 九州産大

筑波大 27（16－7 11－8）15 日本大

同志社大 25（13－13 12－11）24 久留米工大

中央大 22（10－6 12－13）19 福岡大

名城大 22（15－8 7－5）13 慶応大

○…国士×大経は、最後まで1点を争う攻防となったが、29分に国士大の池田がステップシュートを決め逃げ切った。

早大×関学も、1点を争う好ゲームとなったが、早大・植村・東根が連続得点し勝利を得た。

法大×広工大は、硬くなった法大に対し、広工大がハツラツしたプレーを見せたが、法大がつき離した。

日体×九州産大は、走跳投に勝る日体大が圧倒的な強さを見せ、九州産大を寄せつけなかった。

筑波×日大は、前半日大の健闘で、接戦となったが、後半に入ると筑波大が速攻で日大をつき離した。

同大×久留米工大は、立ち上りから緊迫したゲーム展開となったが、同大がかろうじて逃げ切った。

中央×福岡は、前半福岡大が1点リードしたが、後半残り5分で疲れの出た福岡大に対して中央大は速攻で勝負を決めた。

名城大×慶大は、動きに勝る名城大が着々と加点し勝利を得た。

4強に関東勢出揃う

▽同準々決勝

早稲田大 16（9－10 7－5）15 国士館大

両チーム共にパスワークが悪く、攻撃の足を止める状態が多く、パスミスも目立つ、早稲田は国士館のディフェンスの動きすぎをうまく利用し、シュートチャンスを作るものの今一つ攻めあぐむ、国士館は後半に入り、ディフェンスも落ち着いたプレーをし、攻撃にもリズムが出てくるが、三本松中心の攻撃を早大に読まれ得点にならない。残り2分に1点差においついたが、前半の2点差が響いておしくも敗れた。（東）

日体大 25（14－8 11－6）14 法政大

前半開始直後、法大ポスト、日体大サイドあのペナルティの得点で始まった。以後、日体の速攻、一方法大は遅攻で加点と対象的な攻防となったが、日体大の厚いディフェンスを法大はやぶれず敗退した。日体はGK井藤のボール出しに目をみはるものがあった。（清水）

筑波大 27（5－1 2－1 ： 10－11 10－9）22 同志社大

立ちあがり筑波は同志社のミスより速攻で4対1とペースをにぎったが、同志社も高砂らのロングで追いかけ互格の展開となり、前半もこの展開は変わらず、5分に同志社は粟屋のカットインで初めてリードを奪いペースを握った。

その後両チーム共に点を取り同点が続き、残り1分は19対19。1分を切って、筑波・矢島のカットインで筑波が逃げ切ったかに見えたが、必死の同志社も残り20秒粟屋のカットインで延長に入った。

この熱戦にピリオドをうったのは、筑波西山のロングで好ゲームであった。（岡本）

中央大 19（7－8 12－10）18 名城大

名城大が試合の立ち上り先取点をとり、個人技、シュート力で中大も対抗し、一進一退、中大尾上の左腕からの変則シュートがよく決まり2点リードで前半終了。後半中大に元気なく動きがとまりミスが出る間に、名城大のシュートが決まり、中盤で逆点したが、GK襲輪の警告でムードが悪くなり中央大の田口のシュートで1点リードしてそのまま押し切った。名城大には、惜しい試合となった。（北岡）

早稲田、劇的なサヨナラ

▽同準決勝

早稲田大 18（7－7 11－10）17 日体大

【日体】	得		【早大】	得
井藤	0	GK	譲原	0
阿部	0	GK	菊島	0
成瀬	2	FP	村崎	9
池田	0	FP	植村	1
溝部	3	FP	寺井	2
酒井	0	FP	東根	2
平野	7	FP	阿部	0
岡田	0	FP	北島	0
村井	4	FP	小山	1
宮城	0	FP	関口	0
寺山	1	FP	田畑	3
佐々木	0	FP	村越	0
	17	PT		18
	（2）			（6）

（審・川島、森）

前半10分までは両チーム攻撃に固さがみられたが、その後日体平野の速攻、サイドシュートで、村崎のカットインとそれぞれ持ち味をいかし徐々にスピードある好ゲームとなり一点差で前半終了。後

半も、1点を争う熱戦。残り8分には16対16。この後両チームともにミスがあり、5分間は無得点。後半28分に日体は速攻からPTをさそい村井が決めリード。しかし29分早大も東根のカットから速攻で同点。延長かと見えたが、残り15秒で日体がPTを得、そのPTミスのボールで逆襲し、サイドでPTをさそい村崎がノータイムペナルティーを決め早大が勝利を得た。インカレ史上に残る屈指の好ゲームであった。（岡本）

中　大 29（18－12，11－11）23 筑 波 大

【筑波】	GK 香川	GK 佐藤	FP 河野	矢島	大塚	田中	山下	高須	西山	中浦	中島	古屋
得	0	0	2	5	0	2	2	0	9	0	3	0

【中央】	GK 鷲巣	GK 柿崎	FP 松原	田口	猪野	藤井	尾上	塚田	頼行	中川	庄司	実方
得	0	0	2	6	5	6	7	3	0	0	0	0

（審・光島、井上）

29（6）PT（10）23

立ち上がりからリズムにのった中大は15分7－3とリード。ところが9分間無得点、その間に筑波が追い上げ同点、後は1進1退のまま同点で終了。後半に入り中央はPTで先取、常に先手を取り18分19－17。20分21－18とリード、25分には田口のカットで25－19とリードほぼ試合を決めた。中大の攻撃力が筑波のディフェンス力を破った試合といえる。（佐伯）

▽3位決定戦

筑 波 大 25（16－8，9－12）20 日 体 大

【日体】	GK 井藤	GK 阿部	FP 成瀬	池田	溝部	酒井	平野	岡田	村井	宮城	寺山	金丸
得	0	0	1	2	4	1	7	0	3	1	1	0

【筑波】	GK 香川	GK 佐藤	FP 河野	矢島	大塚	田中	山下	高須	西山	中浦	中島	古屋
得	0	0	5	5	0	3	2	0	8	0	2	0

（審・川島、森）

25（3）PT（2）20

お互い関東リーグで手の内を知りつくしたチーム同志の対戦だが三位決定戦と言うことで前半は多少盛り上りにかけた試合だったが後半日体大点リードを西山を中心に筑波大が盛り返し残り5分で筑波大が連続ゲット25対20で日体大を振り切った。（福田）

中大の急迫及ばず

▽同決勝

早稲田大 22（8－10，14－10）20 中 大

【中央】	GK 鷲巣	GK 柿崎	FP 松原	田口	猪野	藤井	尾上	塚田	兼行	中川	庄司	実方
得	0	0	2	7	3	4	4	0	0	0	0	0

【早稲】	GK 譲原	GK 菊島	FP 村崎	植村	吉井	東根	阿部	北島	小山	関口	田畑	村越
得	0	0	9	3	3	2	0	1	1	0	3	0

（審・光島、井上）

22（4）PT（4）20

前半は両チームとも大型チームの特色を生かしロングシュートとポストプレーでの点のとりあいになったが、25分あたりから早大が連取し4点差をつけた。中大も必死に追いあげ後半開始早々2点連取し8分には尾上のスカイ、9分にも尾上の速攻で初めてリードしペースを握った。しかし、ここで中大ディフェンスにラフプレーが出て一気に乗り切れないまま互角の展開になり18分には、18対18の同点。勝負は終盤にもつれこんだこの混戦から抜け出たのは早大、24分に田畑の速攻、25分村崎のロングで2点差28分にはダメ押しのPTでそのまま逃げ切った。（岡本）

男子ベストセブン　今大会の男子ベストセブンは次のように決まり、閉会式で表彰された。GKで井藤（日体）の3年連続受賞の〝快記録〟は成らなかった
▽GK　菊島功（早大）▽FP　村崎広、東根明人（ともに早大）、藤井泉（中央）、西山清（筑波）、平野隆一（日体大）、栗屋敏則（同大）。

◇

全日本学連は次回の全日本学生選手権を今秋11月、東京で開くことに内定した。

女子（成年）も30分ハーフに

IHF（国際ハンドボール連盟）は、昨年モスクワで開いた通常総会で「一九八一年（昭56）八月一日から、大巾なルール改正を行なう」というPRC（審判・規則委員会）の提案を承認したが、このほど最大の改正点として「18才以上の女子の試合時間は前後半各30分とする」ことが、明きらかとなった。

PRCでは、現在、新ルールの最終的な詰めを行ない、5月ウイーンでの委員会で公布する予定だが、日本協会では、すでに新ルールの原稿（英、独語）を入手しており、審判部が飜訳を完了、ルールブックの作成にとりかかっている。

審判部では、諸国に先がけ、新ルールを、今春4月1日から施行の予定である。

女子の「前後半各30分」については、当分の間、全面採用とせず各大会によって、現行（前後半各25分）ルールを採ることを認めるようだ。

しかし、日本リーグ、全日本総合選手権での新試合時間採用は間ちがいない。

女子のハーフ5分延長は、以前から一部に伝えられていたが、いざ決定してみると、女子関係者に〝衝撃〟を与えており、特に、クラブチームは、現行試合時間の据え置きを、早くも希望している。

本誌では、次号に「新ルール」関係の特集を予定しています。

東女体大、大体大に敗る

▼女子1回戦

日女体大 17（6―4　11―1）5 大阪教大
大阪体大 13（6―4　7―4）8 福岡教大
東女体大 18（9―8　9―6）14 中京大
筑波大 34（20―1　14―5）6 山口大
中京女大 17（7―4　10―1）5 茨城大
京都教大 12（4―4　8―3）7 愛知教大
武庫川女 25（13―4　12―6）10 東京学大

▽同準々決勝

日体大 16（8―4　8―4）8 日女体大

5分すぎまで両チーム得点をあげることができず、そのあとは日女の攻撃を日体GKがよく防いで日体優勢となった。

後半、日体の攻守が雑になり、日女体大が追撃したが、ディフェンスの甘さが目立ち、最後までよく走った日体が順当勝ちした。（井上）

大阪体大 9（5―3　4―3）6 東女体大

連勝を狙う東女体大が敗れた。両チームを通じての初ゴールが8分経過後であった、ということでも分かるとおり、お互いに、相手の出方をさぐり合う形で試合はスタートを切った。

だが大体大は中央部分のディフェンスを厚くすることで守備に成功し、GKの再三の好守で前半の主導権をにぎった。後半に入っても東女体大はノーマークシュートをゴールポストに当ったり、ペナルティーをGKに阻止され、ディフェンスのリズムまで崩してしまい攻撃のスピードに速いテンポを示し積極的なディフェンスをみせた大体大に及ばなかった。大体大GK竹山の好守が光った。（新井）

武庫川女 16（9―0　7―1）1 京都教大

武庫川は速攻で先取点。その後速攻、セットで着々と加点。

一方、京教大も、一生懸命に攻撃するが、GK宮崎に阻まれ、ゴールをあげることが出来ずに終了

後半も同ようの試合展開で、一方的なゲームとなった。

京教大は、終了30秒前に待望の1点を東元がフリースローから得ることができた。（佐伯）

筑波大 18（7―0　11―0）0 中京女大

前半、1年生4人がスタメンの筑波が伸び伸びしたプレーを見せたのに対し、中京女は、サイドのラインクロス、PTのポイントオーバーなど自らのミスで自滅、筑波のはやいつめのディフェンスをくずせず、逆に速攻をくい、7―0の筑波リードで終る。後半に入ってさらにリズムのでてきた筑波に対し、中京女子は決定的なチャンスも筑波GKの好守にはばまれとうとう最後まで一点もうばえず完敗した。

クリーンハンドボールを目標にかかげる筑波のさわやかさが、際立ったゲームであった。（森）

武庫川、関東の壁破れず

▽同準決勝

日体大 21（14―1　7―4）5 大阪体大

得	【日体】		【大体】	得
0	高倉	GK	竹山	0
0	藤井	GK	吉田	0
2	鈴木紀	FP	横井	0
0	石島	FP	飯島	1
4	鈴木早	FP	市原	0
5	石井	FP	辰己	0
1	岩田	FP	中生	0
3	大崎	FP	塚田	1
2	加藤	FP	伊勢	3
3	後藤	FP	小川	0
1	吉田	FP	筒井	0
0	矢野	FP	望月	0
21（2）		PT		（1）5

（審・岡本・清水）

昨日とはうってかわって、大体大は日体大のディフェンスを全くくずすことができず15分すぎのサイドシュートによる一点だけと、全くの日体大ペースで14―1とほぼゲームを決めてしまった。後半より大体大は伊勢のロング2本で反撃を試みたが日体大は速攻などで4点連取、つけ入るスキを与えず快勝した。（森）

筑波大 14（7―6　4―5　延長 1―1　2―1）13 武庫川女

開始直後、筑波右45度からのシュートが決まり先取点をあげたのち、武庫川ペナルティーをおとしたが、パス・カットから速攻が決まり、同点とする。筑波大ダブルポストを活用し、前半一点リードとした。後半に入り、武庫川も同点とし、尚、セットオフェンスからリードしたが又も20分過ぎ同点となり、そのまま延長戦となり、後半、筑波大のロングシュートが決まり、勝敗を決した。両チームともよく動き、実力伯仲の好ゲームであった。（井上）

得	【筑波】		【武庫】	得
0	伏見	GK	宮崎	0
0	久保	GK	畑添	0
2	藤岡	FP	沢村	0
2	富山	FP	清水	6
0	国松	FP	川合	2
3	小林	FP	玉置	0
0	岩本	FP	倉光	1
0	上水流	FP	中村	0
0	小西	FP	高田	1
1	河原	FP	藤山	0
0	山口	FP	守行	0
6	鈴木	FP	神並	3
14（5）		PT		（1）13

（審・福田・佐伯）

▽3位決定戦

武庫川女 9（6―2　3―2）4 大阪体大

2点を先行した武庫川に対し、大体大も2点を返し、中盤は大体大が押し気味な展開となったが、GKの好守もあり、どうしても得点できず、18分すぎからは再び武庫川の外からのシュートが決まりはじめ、4連続得点。6―2武庫川リードで前半を終る。後半も先手をとったのは武庫川で、大体も2点を返したが、セットでは武庫川のディフェンスをくずすことができず、10分すぎから約15分間無得点で終った。（森）

日体、リード守れず

▽同決勝

筑波大 13（4―6　9―2）8 日体大

得	【筑波】		【日体】	得
0	伏見	GK	高倉	0
0	久保	GK	藤井	0
5	藤岡	FP	鈴木紀	1
2	富山	FP	鈴木早	2
1	上水流	FP	石島	0
3	河原	FP	石井	2
0	山口	FP	岩田	0
2	鈴木	FP	大崎	0
0	中山	FP	加藤	2
0	小林	FP	後藤	1
0	岩本	FP	吉田	0
0	小西	FP	天野	0
13（3）		PT		（1）8

（審・清水・岡本）

開始直後、パスカットから日体大先取点ののち、ペースを握り、ディフェンスも良く、追加点をあげていく一方、筑波は息が合わず凡ミスとディフェンスの甘さがあったが徐々に追いあげ点差をつめ前半を終える。後半に入り、シーソーゲームを展開し、筑波大15番鈴木の見事なロングシュートが入り、同点とし、さらにペナルティーからリードし、筑波大が優勝した。両チームともよく動き、また激しいあたりもあり、決勝戦にふさわしいゲームであった。（井上）

女子ベストセブン　今大会の女子ベストセブンは次のように決まり、閉会式で表彰された。▽GK　久保真理子（筑波）▽FP　藤岡喜久恵、小林玲子、鈴木敬子（いずれも筑波）、鈴木紀子、石井幸（ともに日体）、清水幸代（武庫川女）

プレス・ルーム <30>

杉山　茂
（NHK運動部）

■ア大会採用はAHF会長の努力

来年11月ニューデリーを中心に開かれる第9回アジア競技大会で男子ハンドボールの初採用が、どうやら正式決定したようである。

どうやら、というのには訳がある。同大会での実施は、ここ2年間決まったといっては削られ、削られたと伝えられては復活した、という繰り返しだったからだ。

日本協会関係者も、その都度、喜んだり嘆いたりさせられ、最近では、どう伝えられても反応を示さなくなっていた。

しかし、今回の報道は、最高機関・アジア競技連盟（AGF）の評議員会と実行委員会での決定というから、太鼓判を捺してよいだろう。

過去の経過が、こうも不安定だったのは、インドにおけるハンドボールの未普及があげられる。

インドは、国際ハンドボール連盟(IHF)には、七四年に正式加盟し、最近の調査では成年・ジュニア合わせて約六百チーム、一万人をこす競技人口を持っている。

だが、十年に満たぬ球史では、ぼう張を防ごうとするアジア大会に仲間入りするにはパワー不足だった。

このハンデを押しのけて、インド当局にハンドボール採用へ踏み切らせたのは、アジアハンドボール連盟（AHF）のS・F・A・アル・サバハ会長（クウェート）の意欲と積極性である。

同会長のハンドボールに示す情熱は、なみなみならぬものがあり七四年のAGF評議員会（テヘラン）で、ハンドボールをあっという間に、アジア競技大会競技の列に加えてしまったのも、同会長の手腕によるところが大きい。

渋面のインド当局を説得するために、「アウトドア」での実施を打ち出したのも、同会長の発案で「アジアでハンドボールを発展させるためには、体育館にこだわっていてはダメ」というのは、かねてからの持論であった。

ところで、アジアのハンドボールが、一つ一つ前進していくなかで、先発国の日本が、ほとんどサポート役を果たしていないのは、どうしたわけか。

年末から新年にかけてクウェートで行われたアジア国際レフェリー講習会にも、せっかく招待状が来ながら、欠席しているし、そのほか、アジアの事業に、日本はつねにゲストでおさまりかえり、リーダーシップをとって拡充への協力を示すような姿勢をとったことがない。

それでいて、AHF理事のポストだけは、各国の顔をしかめさせながら強引に二席を手にするなどどういう感覚なのだろう。

アジア競技大会採用をきっかけに、このあたりを少し考えてみる必要があるのではなかろうか。

■改田智洋記者（朝日）を悼む

朝日新聞のスポーツライター・改田智洋さんが1月27日夜、心筋こうそくで急逝された。42才という若さ、とても信じられない。

改田さんは、この＜プレス・ルーム＞にも、何回か立ち寄って貴重な意見をいただいているので、読者もご存知だろう。

改田さんは、日本で数少ない「ハンドボールライター」だった。

マスコミの関心がうすいハンドボールというスポーツに、改田さんは、積極的に飛びこんでいろいろな記事を書いて下さった。

亡くなられた時は、西部本社（北九州）の運動部勤務だったが、永い間、名古屋本社に居られ、球技担当だった。

ふつう、私たちの世界で、球技担当というと、ハンドボールはサッカーやバスケットボール、ラグビー、バレーボールの添えものになってしまうケースが多い。

なのに、改田さんは、ハンドボール場へもマメに足を運んで下さった。

私も、名古屋で仕事をしていたことがあるので、記者席でよく隣り合わせた。

隣り合わせた、というより、取材しているのが改田さんと私だけということが多かったのだ。

そうこうしているうちに、改田さんのハンドボール情報は私が舌を巻くほどになり、やがて、それが技術論、協会論となった。どれも正しく鋭かった。

僅かな期間に、大同や本田や田村紡（当時）やブラザーのコーチ陣、主力選手と親交を結び、日本協会や地元協会の人たちとも付き合いを深くされていたのだ。

ハンドボールに、こんな熱心な記者が、それも、「朝日新聞」という大マスコミの中から出て下さったことを、ハンドボールOBの私は嬉しく思ったし、どれだけ力づけられたか分からない。

改田さんは、よく「ハンドボールのためのスペースが大きく取れないのだよ」と、すまなさそうな顔をされた。

でも改田さん、ハンドボール界は、そんなこと少しも気にしていませんでしたよ。

チーム関係者も選手たちも協会役員も「改田さんが来てくれた」と、それだけで喜んでいたではありませんか。

それなのに、どうして、もう来てくれなくなってしまったのですか？。

もっともっと、ハンドボール界を叱っていただきたかったのに。

心からごめい福を祈ります。

関東学連男女

今年も西ドイツへ研修遠征

関東学連は、恒例となった「西ドイツ研修遠征」を今年は3月2日から約10日間行なうことになりこのほど、その参加メンバーを別表のとおり発表した。

この遠征は、関東学連が各校の強化を企って53年2月から毎年1回、本場・西ドイツで行なうもので、4回目の今回は男子9大学21名、女子4大学15名が参加する。

いずれも、各校の監督、コーチから推せんをうけた者で、将来、白チームの主力になることが期待されている選手である。

男子の佐々木(日体)、女子の加藤(日体)は昨年につづいて2年連続、女子の後藤(日体)は一昨年も参加しており、それぞれ2度目。

一行は2月28日午後9時30分の日本航空433便で成田国際空港を出発し、フランクフルトのスポーツスクールに寄宿、フランクフルト選抜をはじめ、男子はヘッセン地域上級リーグのTV・グラットバッハ、女子は全国リーグで活躍する強豪TSV・ロットバイス・オーエルバッハらと、それぞれ4試合を行なう予定。

なお、チーム役員は団長が滝口三郎氏(関東学連理事、明大監督)監督は男子が鈴木章弘(明大出)、女子が水上一(筑波大出)、コーチ陣は男子アシスタントに河野彰寛女子に笹倉清則、河村レイコ(いずれも筑波大出)、総務として関東学連委員の渕岡繁、松田弘、池田範宏が参加、青木宏治氏(関東学連理事長、日体大出)もレフェリーとして随行する。

【男　　子】

・GK
矢内　浩（国士舘2）189cm
佐藤　功（筑　波2）178
森田　佳光（日　大1）184
・FP
佐々木　功（日　体2）188
三浦　力（日　体2）182
金丸　雅美（日　体2）180
寺山　敦雄（日　体2）180
鈴木　充（中　央3）180
中川　英二（中　央2）179
庄司　寧（中　央2）179
実方　智（中　央1）182
阿部　伸（早稲田3）192
北島　潤一（早稲田3）180
村越　信重（早稲田2）173
中浦　功（筑　波3）160
古屋　浩（筑　波2）168
志村　久弥（慶　応3）180
田口　隆（日　大1）182
池田　勝（国士舘1）171
森重　博之（明　治3）169
小早川一郎（東　海3）184
・マネジャー
杉山　孝雄（明　治3）
江川　泰（慶　応3）

【女　　子】

・GK
久保真理子（筑　波1）168
小野　陽子（日　体1）160
・FP
加藤　典代（日　体3）166
岩田　尚美（日　体3）163
後藤世理子（日　体3）160
吉田　尚子（日　体3）156
中山　由香（日女体3）162
下山　京子（日女体3）160
大森　享子（日女体3）160
金井　美雪（日女体1）166
岩木　幸子（筑　波3）166
上水流伸子（筑　波3）162
山口　順子（筑　波1）160
宮田　和代（東女体1）168
内山美代子（東女体1）162
・マネジャー
稲葉　由香（筑波　3）
・（　）内の数字は学年

福岡教大(女)が全勝優勝

▼福岡県秋季学生リーグ（11月）

▽女子（2回戦制）
福岡教大 23—14 福岡大
福岡大 14—10 九州女短大
福岡教大 35—10 九州女短大
福岡教大 23—14 福岡大
福岡大 17(分)17 九州女短大
福岡教大 23—7 九州女短大

【順位】①福岡教大4戦全勝②福岡大1勝1分2敗③九州女子短大1分3敗

▽男子2部
西日本工大 17(分)17 九州大
東海大福岡 13—9 九州共立大
東和 16—15 九州工大
西日本工大 20—17 東和
東海大福岡 22—14 九州工大
九州大 25—19 九州共立大
九州共立大 20—15 西日本工大
九州大 29—19 東和
東海大福岡 18—17 東和
九州工大 27—15 西日本工大
九州大 26—16 九州工大
九州共立大 25—17 九州工大
西日本工大 19—13 東海大福岡
東和 26—25 九州共立大
九州大 26—15 東海大福岡

【順位】①九州大4勝1分②東海大福岡教養部3勝2敗③西日本工大2勝1分2敗④九州共立大・東和2勝3敗⑥九州工大1勝4敗。
（福岡工大は全試合棄権）
（注）男子1部は本誌前号既報）

高校選抜、地域予選始まる

3月名古屋で行われる第4回全国高校選抜大会の各ブロック予選が始った。

本誌19頁所報どおり、今年から参加校数が増したこともあって、各ブロックとも熱戦がつづき、新人チームとは思えぬ好内容のようだ。本誌〆切り（1月27日）までに伝えられた代表校は次のとおり

▼男子▽北海道　函館有斗▽東北　青森商(青森)、盛岡商（岩手）▽北信越　氷見（富山）、小松（石川）▽中国下松工（山口）、倉敷商（岡山）。

▼女子▽北海道　函館女商▽東北　秋田和洋（秋田）、涌谷(宮城)▽北信越　小松市女(石川)有磯（富山）、▽中国　徳山（山口）、真備(岡山)。

各地の記録

同門決勝でジュニア勝つ

第20回全道室内選手権は1月10・11日の2日間函館市民体育館で行われ、19チームによる男子は地元有斗の同門決勝となり、ジュニアが攻撃力にものを云わせて、シニア（有斗ク）の3連勝を阻み初優勝、女子は決勝1試合だけで函館クが久々の優勝を飾った。

▽男子1回戦（2試合）
道日体ク 20―14 北大水産学部
大谷クB 棄権 紋別北高ク
大谷ク 23（延）20 千歳ク

▽同2回戦
エルム・ク 21―15 八雲ク
函館有斗高OB 37―16 札幌P・J
旭川市役所 25―14 翔球会
室蘭工大 22―16 青雲ク
有斗ク・J 46―14 アルタイト
函館有斗ク 34―10 道日体ク
大谷クB 17―15 全旭川教大
北大 26―10 大谷ク

▽同準々決勝
函館有斗ク 20―14 エルム・ク
大谷クB 14―13 函館有斗高OB
室蘭工大 22―16 旭川市役所
有斗ク・J 28―16 北大

▽同準決勝
有斗ク 25（12―8、13―5）13 大谷クB
有斗ク・ジュニア 33（15―8、18―6）14 室蘭工大

▽同決勝
有斗ク・ジュニア 33（14―11、19―14）25 有斗ク

▽女子決勝
函館ク 14（5―4、9―5）9 旭川教大OG

東根球友会が優勝飾る

▼第18回山形県総合室内選手権（12月・山形県体育館）

▽男子準々決勝
真室川高 23―16 新庄工高B
新庄工高 25―14 大石田高
大石田矢作会 18（延）14 山形大
東根球友会 22―20 新庄ク

▽同準決勝
真室川高 22―18 新庄工高
東植球友会 16―13 大石田矢作会

▽同決勝
東根球会 21（12―5、9―6）11 真室川高

▽女子1回戦（1試合）
日大山形高 9―4 竹田女高

▽同2回戦（1試合）
米沢女高 7―5 日大山形高

▽同決勝
米沢女OG 12（5―4、7―4）8 米沢女高

桜水商、藤村女を破る

▼東京都高校秋季新人戦（11月・井草高ほか）

▽女子準々決勝
拓大一 14―4 府中東
藤村女 7―6 三宅
桜水商 10―7 小平
桐朋女 12―0 井草

▽同準決勝
藤村女 11―6 拓大一
桜水商 5―4 桐朋女

▽同3位決定戦
桐朋女 18―4 拓大一

▽同決勝
桜水商 12（5―2、7―3）5 藤村女

（注）男子は前号既報

宮崎教員が快勝

▼第17回宮崎県選手権（11月・宮崎体育館）

▽男子1部準々決勝
宮崎教員 31―12 宮大
小林工高 15―14 都商OB
泉丘会 27―15 日南ク
小林ク 24―18 宮工OB

▽同準決勝
宮崎教員 22―10 小林工A
小林ク 19―18 泉丘会

▽同決勝
宮崎教員 34（14―9、20―6）15 小林ク

▽男子2部準々決勝
泉ケ丘高 16―12 日南高
小林中 10―6 日野中
延岡東 15―12 延岡高
宮崎南A 26―4 諸塚ク

▽同準決勝
小林中 18―10 泉ケ丘高
延岡東 23―11 宮崎南A

▽同決勝
延岡東 20（11―5、9―4）9 小林中

▽女子準々決勝
小林商B 17―4 宮崎第一
小林商C 8―6 本庄
泉友会 9―6 延岡高
小林商A 15―8 こすもすク

▽同準決勝
小林商B 12―6 小林商C
小林商高 12―7 泉友会

▽同決勝
小林商高 14（7―6、7―8）14 小林商B
PTC1―0で小林商高の優勝

女子で結城二高3連勝

▼第30回茨城県総合選手権（12月・勝田高）

▽男子準々決勝
日本原研 16―15 自衛隊勝田
茨城大 25―6 古河三高
筑波ラバーズ 17―13 日立一高
茨苑ク 25―16 土浦一高

▽同準決勝
茨城大 16―8 日本原研
茨苑ク 17―13 筑波ラバーズ

▽同3位決定戦
筑波ラバーズ 17―14 日本原研

▽同決勝
茨城大 14（8―5、6―5）10 茨苑ク

▽女子準々決勝（3試合）
茨城大 16―3 岩井西高
太田二高 10―7 下妻二高
鉾田二高 13―5 潮来高

▽同準決勝
結城二高 10―6 茨城大
太田二高 15―3 鉾田二高

▽同3位決定戦
茨城大 11―8 鉾田二高

▽同決勝
結城二高 9（5―5、4―1）6 太田二高

女子で青森中央が「初」

▼第30回青森県高校秋季選手権（11月・野辺地村立体育館）

▽男子準々決勝
野辺地 31―12 五所川原
青森 19―10 弘前南
青森商 26―6 三本木
鰺ケ沢 27―13 青森南

▽同準決勝
野辺地 13―7 青森
青森商 29―9 鰺ケ沢

▽同決勝
野辺地 16（5―9、11―5）14 青森商

▽女子1回戦（2試合）
七戸 17―2 青森東
青森中央 17―2 三本木

▽同準決勝
青森中央 13―10 野辺地
青森西 16―2 七戸

▽同3位決定戦
野辺地 15―6 七戸

▽同決勝
青森中央 10（4―3、6―1）4 青森西

日新監督に吹上氏

日本リーグ男子・日新製綱は、新監督に吹上明氏（下関工高出）を決め発表した。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一九三号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可
昭[illegible]六年一月二十五日印刷
昭和五六年二月一日発行
東京都渋[illegible]神南一ー一ー一
電話 代表(461)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価三百五拾円(年間購読料三千三百円)